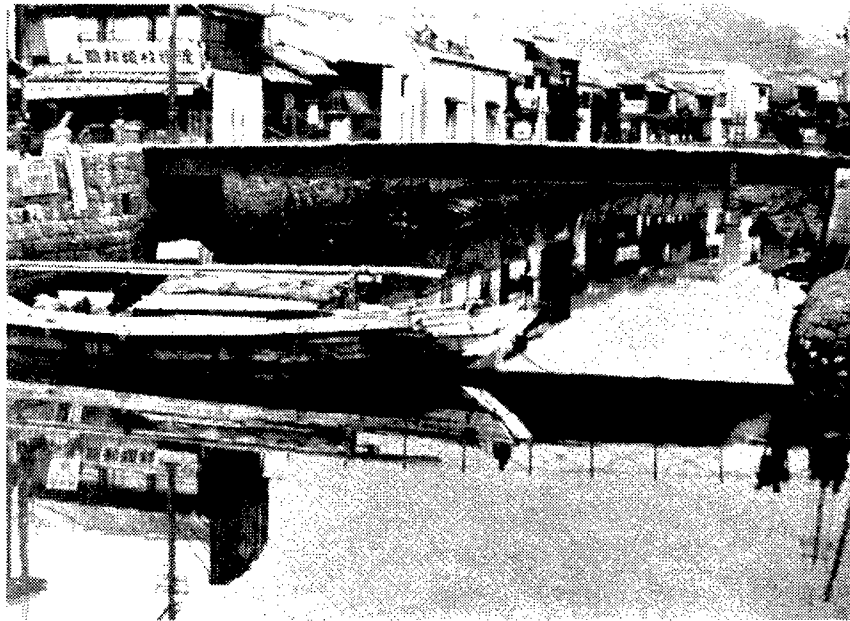


§ 7. 橋梁製作メーカーの歴史

7-1. はじめに

我が国における鋼（鉄）橋製作の歴史は、明治元年（1868）に官設長崎製鉄所が「くろがね橋」（橋長 23.6m, 幅員 6.9m, 単純プレートガーダー, 写真-7.1）を製作したことに始まる。それから 130 年以上を経た今日では、年間約 50 万トンの鋼橋が作られるようになり橋梁製作メーカーも地方の鉄工所まで加えると 100 社を超えるといわれるようになった。ここでは、明治期から現代までに我が国の鋼（鉄）橋を製作したメーカーについて、各社毎の沿革を調査表形式として「7-4.各橋梁製作メーカーの沿革」の節で、その全体としての変遷を「7-3.橋梁製作メーカーの変遷」の節で [表-7.1] にまとめた。



[写真-7.1：くろがね橋¹⁾]

7-2. 概要²⁾

[明治期]

明治に始まった我が国における鋼（鉄）橋製作は、前述の官設長崎製鉄所の他に横浜の灯明台局や、赤羽工作分局、官設鉄道の新橋工場などの官設工場が始まる [官設時代]。次いで官設工場から機械設備を受け継いだ石川島平野造船所や、一時官営工場となった芝浦製作所が橋梁の製作を始めた。

明治も中期になると、これらの工場で技術を得た人たちが独立して設立した機械工場でも橋梁が製作されるようになった。この時代は鉄製品全体の需要が少なかったこともあって、鉄製品ならなんでも取り扱う「よろずや的」とも呼ばれている工場でも橋も作られていた

[機械工場の時代]。そして、工業の専門化が進んだ明治後期になると、川崎造船所や大阪鐵工所あるいは三菱造船所などが造船と兼業とし鋼橋の製作を始め、そして車輜と兼業の汽車製造、鋼橋の製作を主業とする横河橋梁製作所などが生まれる。

[大正期]

大正期になると明治末期からの流れが加速される。鋼橋と建築鉄骨の製作を主業とした専業と呼ばれる会社では松尾鉄骨橋梁、日本橋梁などが生まれ、また、浅野造船所や播磨造船所など多くの造船所も鋼橋の製作を始める。機械製造の桜田機械製造所が鋼橋の製作に傾斜したのもこの時代であり、化学工業機械の安藤鐵工所、食品機械の月島鐵工所なども参入したのがこの時代である。明治以来の日本は不況と不況の谷間をよるめき歩いてきたといわれるが機械工場や造船所などは一部を除いて不況時になると鋼橋の製作に参入していたともいえる。

[昭和期]

昭和初期は、東京では震災復興が、大阪を始めとする各都市では都市計画事業が行われ、地方でも道路の整備が進められるようになった。そのため鋼橋の需要は高まり、多数のトラスやアーチ橋が架設された。この時期、専業メーカーとしては東京鐵骨橋梁製作所、宮地鐵工所などが製作を始めるが、まもなく戦時体制に入り、橋梁製作は空白の時代を迎える。昭和40年頃のいわゆる高度成長期には、東海道新幹線、東名・名神自動車道などの大型プロジェクトの影響により鋼橋の需要は年間30万トンに達する勢いとなった。そのため、この時期に製作を開始したメーカーが多く、現在、(社)日本橋梁建設協会に加盟している橋梁製作メーカーの半数以上はこれに該当する。また、この時期にはメーカー間の吸収・合併が多く、それにとまなう社名の改名が多いのも一つの特徴である。その代表例として石川島播磨重工業、三菱重工業、住友重機械工業などが挙げられる。

《参考文献》

- 1) ながさき浪漫会編：『ながさき浪漫』,長崎文献社,pp.2,1999.2
- 2) 藤井郁夫：『日本の鋼(鉄)橋製作工場について－明治期－』,土木史研究,No.18, pp.381-386,1998.5

7-3. 橋梁製作メーカーの変遷

我が国における橋梁製作メーカーの変遷を [表-7.1] に示す。調査対象としたメーカーは下記のとおりである。

- ① 明治期以降の官設工場，民間メーカーで鋼（鉄）橋を製作したことが，各種記録書，社史などで確認できたもの
- ② 現在（平成 14 年度），（社）日本橋梁建設協会の会員会社

[表-7.1] は，これらの橋梁製作メーカー約 70 社を現在の会社名でアイウエオ順に並べた。ただし，現存しない，もしくは現在橋梁生産を行っていないメーカーは当時の会社名を【 】で示した。また，吸収，合併されたメーカーは解り易いように合併先のメーカーの直後に枝番号を付けて並べた。そして，これらを明治期から現在に至るまで大きく六つのゾーンに分け，橋梁生産を行っていた期間や社名変更，合併などの時期を示した。

《表-7.1 の凡例》

No.	メーカー名	明治	～	大正	～	昭和初期	～	昭和中期
1	【A工場】	明治10年(1877)		A工場				
2	(株)E製作所	現存しないあるいは現在橋梁製作を行っていないメーカーを示す						
3	C鉄工所			大正13年(1924)～ C鉄工所		C鉄工所		C鉄工所
4	D重工業(株)	注1)明治15年(1882)～ ○○○造船所		注2)大正1年(1912)～ (株)○○○○○造船所		昭和22年(1947)～ ○○○重工業(株)		○○○重工業(株)
4-1	【E鉄工所】	※明治13年(1910)～ E鉄工所		E鉄工所				
4-2	【(株)F造船所】			大正1年(1912)～ F造船所				
5	【G工業】					昭和29年(1954)～昭和43年(1968) G工業		G工業

現在しないメーカーで No.4 に吸収合併されたことを示す

注1) 明治15年(1882)～
○○○造船所 → 注2) 大正1年(1912)～
(株)○○○○○造船所

注1) 橋梁製作を開始した時期，もしくは会社の創業時期を示す。橋梁製作を開始した時期が不明なもの，製作が確認できた一番古い時期を示した。

注2) 改名時期を示す

【表-7.1(1):橋梁製作メーカーの変遷(1/4)】

No.	メーカー名	明治	～	大正	～	昭和初期	～	昭和中期	～	昭和後期	～	2002年現在		
1	【赤羽工作分局】	明治11年(1878)～ 赤羽工作分局												
2	(株)アルス製作所									昭和38年(1963)～ (株)アルス製作所		(株)アルス製作所		
3	【(株)安藤鉄工所】			大正12年(1923)～ 安藤鉄工所		(株)安藤鉄工所								
4	石川島播磨重工業(株)	明治16年(1883)～ 石川島平野造船所	→	明治26年(1893)～ (株)東京石川島造船所 明治45年(1912)～ 高橋鉄工所	→	(株)東京石川島造船所 高橋鉄工所	→	(株)東京石川島造船所	→	昭和20年(1945)～ 石川島重工業(株)	→	昭和35年(1960)～ 石川島播磨重工業(株)	→	石川島播磨重工業(株)
4-1	【高橋鉄工所】													
4-2	【(株)播磨造船所】					大正11年(1922)～ (株)播磨造船所	→	(株)播磨造船所	→	～昭和35年(1960) (株)播磨造船所 昭和29年(1954)～昭和 43年(1968) (株)呉造船所 昭和28年(1953)～昭和 39年(1964) 名古屋造船(株) 昭和28年(1953)～ 石原工業(株)				
4-3	【(株)呉造船所】													
4-4	【名古屋造船(株)】													
5	石原工業(株)													
6	【内山鉄工所 (大阪)】			明治38年(1905)～ 内山鉄工所										
7	宇野重工業(株)									昭和40年(1965)～ 宇野重工業(株)		宇野重工業(株)		
8	宇部興産(株)											宇部興産(株)		
9	【梅鉢鉄工所】					大正5年(1916)～ 梅鉢鉄工所								
10	【大阪砲兵工廠】	明治13年(1880) 大阪砲兵工廠												
11	【(株)大阪造船所】							昭和35年(1960)～ (株)大阪造船所						
12	【大島工業(株)】							昭和32年(1957)～ 大島工業(株)	→	大島工業(株)				
13	(株)大島造船所							昭和38年(1963)～ (株)大島造船所	→	(株)大島造船所	→	(株)大島造船所		
14	大谷桜井鉄工(株)							昭和39年(1964)～ (株)桜井鉄工所	→	(株)桜井鉄工所	→	昭和63年(1988)～ 大谷桜井鉄工(株)		
15	【岡崎工業(株)】							昭和28年(1953)～ 岡崎工業(株)						
16	片山ストラテック(株)					昭和2年(1927)～ (株)片山鉄工所	→	(株)片山鉄工所	→	(株)片山鉄工所	→	平成4年(1992)～ 片山ストラテック(株)		
17	【加藤鉄工所 (埼玉)】			大正14年(1925)～ 加藤鉄工所										
18	川崎重工業(株)			明治21年(1888)～ 川崎造船所	→	川崎造船所	→	昭和3年(1928)～ 川崎車輛(株)	→	～昭和44年(1969) 川崎車輛(株)	→	昭和44年(1969)～ 川崎重工業(株)	→	川崎重工業(株)
18-1	【川崎車輛(株)】													
18-2	【平岡工場】	明治23年(1890)～ 平岡工場												
18-3	【汽車製造(株)】	明治32年(1899)～ 大阪汽車製造	→	明治34年(1901)～ 汽車製造	→	明治45年(1912)～ 汽車製造(株)	→	汽車製造(株)	→	汽車製造(株)	→	～昭和47年(1972) 汽車製造(株)	→	昭和42年(1967)～ 川崎製鉄(株)
19	川崎製鉄(株)													
20	川鉄鉄構工業(株)							昭和45年(1970)～ 川崎電機工業(株)	→	昭和53年(1978)～ 川鉄鉄構工業(株)	→	川鉄鉄構工業(株)		

【表-7.1(2): 橋梁製作メーカーの変遷(2/4)】

	メーカー名	明治	～	大正	～	昭和初期	～	昭和中期	～	昭和後期	～	2002年現在
21	川田工業(株)							昭和31年(1956)～ 川田工業(株)	→	川田工業(株)	→	川田工業(株)
22	【草津作工(北海道)】							昭和36年(1961)～ 草津作工				
23	(株)鋼路製作所									昭和35年(1960)～ (株)鋼路製作所	→	(株)鋼路製作所
24	【久保田鉄工(株)】									昭和43年(1968)～ 久保田鉄工(株)		
25	(株)栗本鐵工所							昭和36年(1961)～ (株)栗本鐵工所	→	(株)栗本鐵工所	→	(株)栗本鐵工所
26	(株)神戸製鋼所			大正4年(1915)～ (株)神戸製鋼所								(株)神戸製鋼所
27	駒井鉄工(株)			大正3年(1914)～ 駒井鉄工所	→	駒井鉄工所	→	昭和18年(1943)～ (株)駒井鉄工所	→	(株)駒井鉄工所	→	駒井鉄工(株)
28	(株)コミヤマ工業							昭和26年(1951)～ 小宮山鉄工所	→	(株)小宮山鉄工所	→	昭和57年(1982)～ (株)コミヤマ工業
29	(株)酒井鉄工所									昭和39年(1964)～ (株)酒井鉄工所	→	(株)酒井鉄工所
30	(株)サクラダ			大正4年(1915)～ (株)桜田機械製造所	→	(株)桜田機械製造所	→	昭和19年(1944)～ 桜田機械工業(株)	→	桜田機械工業(株)	→	平成2年(1990)～ (株)サクラダ
31	佐世保重工業(株)									昭和39年(1964)～ 佐世保重工業(株)	→	佐世保重工業(株)
32	佐藤鉄工(株)					昭和5年(1930)～ 佐藤組鉄工所	→	昭和6年(1931)～ 佐藤工業(株)	→	佐藤鉄工(株)	→	佐藤鉄工(株)
33	(株)サノヤス・ヒシノ明昌							佐野安船渠(株)	→	昭和59年(1984)～ (株)サノヤス	→	平成3年(1991)～ (株)サノヤス・ヒシノ明昌
34	【三山鉄工所(長崎)】			大正9年(1920)～ 三山鉄工所								
35	【(株)芝浦製作所】	明治26年(1893)～ 田中製作所	→	明治37年(1904)～ (株)芝浦製作所								
36	【神工業(株)(北海道)】							昭和38年(1963)～ 神工業(株)				
37	新日本製鉄(株)			昭和2年(1927)～ 八幡製鉄所	→	昭和9年(1934)～ 日本製鉄(株)	→	昭和25年(1950)～ 八幡製鐵(株)	→	昭和45年(1970)～ 新日本製鉄(株)	→	新日本製鉄(株)
38	住友金属工業(株)											住友金属工業(株)
39	住友重機械工業(株)	明治37年(1904)～ 浦賀船渠(株)	→	浦賀船渠(株)	→	浦賀船渠(株)	→	昭和37年(1962)～ 浦賀重工業(株)	→	昭和44年(1969)～ 住友重機械工業(株)	→	住友重機械工業(株)
40	【太平工業(株)】							昭和25年(1950)～ 太平工業(株)				
41	高田機工(株)					昭和7年(1932)～ (株)高田鉄骨橋梁製作	→	昭和14年(1939)～ 高田機工(株)	→	高田機工(株)	→	高田機工(株)
42	瀧上工業(株)							昭和22年(1947)～ 瀧上工業(株)	→	瀧上工業(株)	→	瀧上工業(株)
43	【竹内鉄工所(東京)】					竹内鉄工所						
44	【田中橋梁】			大正13年(1924)～ 田中橋梁								
45	【谷村鉄工所】					昭和6年(1931)～ 谷村鉄工所						
46	【中央橋梁(株)】									昭和40年(1965)～ 中央橋梁(株)		
47	東海鋼材工業(株)							昭和36年(1961)～ 東海鋼材工業(株)	→	東海鋼材工業(株)	→	東海鋼材工業(株)

[表-7.1(3):橋梁製作メーカーの変遷(3/4)]

No.	メーカー名	明治	大正	昭和初期	昭和中期	昭和後期	2002年現在
48	【月島機械(株)】		大正元年(1912)~ 東京月島機械製作所	大正8(1917)~ 月島機械(株)			
49	【鉄道工場(新橋,兵庫,鷹取,大宮,浜松,長野)】	明治8年(1875)~ 鉄道工場(新橋,神戸,鷹取,宮川)	→ 鉄道工場(新橋,兵庫,鷹取,大宮,浜松,長野)	→ 鉄道工場(新橋,兵庫,鷹取,大宮,浜松,長野)			
50	(株)東京鐵骨橋梁			昭和3年(1928)~ 東京鐵骨橋梁製作所	→ 昭和23年(1948)~ (株)東京鐵骨橋梁製作	→ (株)東京鐵骨橋梁製作	→ (株)東京鐵骨橋梁
51	東綱橋梁(株)				昭和34年(1959)~ 東綱商事(株)	→ 昭和39年(1964)~ 東綱橋梁(株)	→ 東綱橋梁(株)
52	東北鉄骨橋梁(株)				昭和25年(1950)~ (株)土井鉄工所	→ 昭和53年(1978)~ 東北鉄骨橋梁(株)	
53	【灯明台局】	明治2年(1869) 灯明台局					
54	【富岡機械製造所】		明治34年(1901)~ 富岡機械製造所				
55	【東洋火熱工業(株)】				昭和24年(1949)~昭和25年(1950) 東洋火熱工業(株)		
56	トピー工業(株)				昭和36年(1961)~ 東都鉄橋(株)	→ 昭和39年(1964)~ トピー工業(株)	→ トピー工業(株)
57	(株)巴コーポレーション					昭和39年(1964)~ (株)巴組鐵工所	→ (株)巴コーポレーション
58	豊平製鋼(株)					昭和39年(1964)~ 豊平製鋼(株)	→ 豊平製鋼(株)
59	【永田製作所】					昭和30年(1955)~ 永田製作所	
60	(株)名村造船所		大正15年(1926) (株)名村造船所			昭和36年(1961)~ (株)名村造船所	→ (株)名村造船所
61	(株)植崎製作所					昭和38年(1963)~ 植崎造船(株)	→ (株)植崎製作所
62	【(株)新潟鉄工所】		明治31年(1898)~ (株)新潟鉄工所				
63	【日本海重工業(株)】					昭和41年(1966)~ 日本海重工業(株)	
64	日本橋梁(株)		大正8年(1919)~ 日本橋梁(株)	→ 日本橋梁(株)	→ 日本橋梁(株)	→ 日本橋梁(株)	→ 日本橋梁(株)
65	日本鋼管(株)				昭和28年(1953)~ 日本鋼管(株)	→ 日本鋼管(株)	→ 日本鋼管(株)
65-1	【(株)浅野造船所】		大正12年(1923)~ (株)浅野造船所	→ 昭和11年(1936)~昭和15年(1940) 鶴見製鉄造船(株)			
66	日本車輛製造(株)	明治42年(1909)~ 日本車輛製造(株)	→ 日本車輛製造(株)	→ 日本車輛製造(株)	→ 日本車輛製造(株)	→ 日本車輛製造(株)	→ 日本車輛製造(株)
66-1	【天野工場】		大正3年(1914)~大正8年(1919) 天野工場				
67	【日本鉄工(株)】	明治34年(1901)~ 日本鉄工(株)					
68	日本鉄塔工業(株)				昭和13年(1938)~ (株)若松服部製作所	→ 昭和36年(1961)~ 日本鉄塔工業(株)	→ 日本鉄塔工業(株)
68-1	【(株)服部製作所】			昭和4年(1929)~ (株)服部製作所			
69	函館どっく(株)	明治36年(1903)~ 函館船渠(株)	→ 函館船渠(株)	→ 函館船渠(株)	→ 函館どっく(株)	→ 函館どっく(株)	→ 函館どっく(株)
70	(株)ハルテック				昭和29年(1954)~ (株)春本鐵工所	→ (株)春本鐵工所	→ (株)ハルテック

[表-7.1(4): 橋梁製作メーカーの変遷(4/4)]

No.	メーカー名	明治	～	大正	～	昭和初期	～	昭和中期	～	昭和後期	～	2002年現在	
71	東日本鉄工(株)									昭和43年(1968)～ 東日本鉄工(株)	→	東日本鉄工(株)	
72	【(株)日立製作所】			大正12年(1923) (株)日立製作所									
73	日立造船(株)	明治33年(1900)～ 大阪鐵工所	→	大正3年(1914)～ (株)大阪鐵工所	→	昭和2年(1927)～ (株)大阪鐵工所	→	昭和18年(1943)～ 日立造船(株) 昭和26年(1951)～	→	日立造船(株) 昭和38年(1963)～昭和 46年(1971)	→	日立造船(株)	
73-1	【舞鶴重工業(株)】							飯野重工業(株)	→	舞鶴重工業(株)	→		
74	【復興局蔵前工場】					復興局蔵前工場							
75	富士車輛(株)							昭和29年(1954)～ 富士車輛(株)	→	富士車輛(株)	→	富士車輛(株)	
76	古河機械金屬(株)									昭和43年(1968)～ 古河鉦業(株)	→	平成元年(1989)～ 古河機械金屬(株)	
77	【北炭機械工業(株)】									昭和40年(1965)～ 北炭機械工業(株)			
78	【北海道鉄骨橋梁(株)】									昭和39年(1964)～ 北海道鉄骨橋梁(株)			
79	松尾橋梁(株)			大正14年(1925)～ 松尾鐵骨橋梁(株)	→	昭和12年(1937)～ 松尾橋梁(株)	→	昭和19年(1944)～ 松尾重工(株)	→	昭和20年(1945)～ 松尾橋梁(株)	→	松尾橋梁(株)	
80	丸誠重工業(株)									昭和44年(1969)～ 丸誠重工業(株)	→	丸誠重工業(株)	
81	【三田農具製作所】	明治19年(1886)～ 三田農具製作所											
82	三井造船(株)									昭和36年(1961)～ 三井造船(株)	→	三井造船(株)	
83	三菱重工業(株)		明治17年(1884) 三菱金社長崎造船所	→	大正6年(1917)～ 三菱造船(株)	→	昭和9年(1934)～ 三菱重工業(株)	→	昭和27年(1952)～ 三菱造船(株)	→	昭和39年(1964)～ 三菱重工業(株)	→	三菱重工業(株)
83-1	【長崎製鉄所】	明治元年(1868) 長崎製鉄所	→										
83-2	【横浜船渠】			大正6年(1917)～ 横浜船渠	→	昭和10年(1935)～ 三井重工業(株)横浜造船所 昭和10年(1935)～ 宮地組	→	昭和27年(1952)～ 新三菱重工業(株) 昭和27年(1952)～ 三菱日本重工業(株)	→				
84	【宮地組(静岡)】												
85	(株)宮地鐵工所					昭和6年(1931)～ (株)宮地鐵工所	→	(株)宮地鐵工所	→	(株)宮地鐵工所	→	(株)宮地鐵工所	
86	【矢野組(大阪)】			大正15年(1926)～ 矢野組									
87	【山田橋梁製作所(大阪)】			山田橋梁製作所									
88	【湯本鐵工所(埼玉)】					湯本工務所	→	湯本工務所					
89	(株)横河ブリッジ	明治40年(1907)～ 横河橋梁製作所	→	大正7年(1918)～ (株)横河橋梁製作所	→	(株)横河橋梁製作所 昭和2年(1927)～ 横尾鐵工所	→	(株)横河橋梁製作所	→	(株)横河橋梁製作所	→	平成3年(1991)～ (株)横河ブリッジ	
90	【横尾鐵工所(佐賀)】												
91	【吉田鐵工所(大阪)】			大正11年(1922)～ 吉田鐵工所									
92	【渡辺鐵工所(八幡)】			大正11年(1922)～ 渡辺鐵工所									

7-4. 各橋梁製作メーカーの沿革

前節では、我が国の橋梁製作メーカーの変遷を示したが、ここでは、それら各メーカー毎にその沿革と製作したおもな橋梁を〔表-7.3〕の書式にまとめた。

沿革には

- ① 創立時期や当時の住所
- ② 橋梁製作開始時期
- ③ 最初に製作した橋梁名
- ④ 製作工場の開設、閉鎖時期
- ⑤ 改組、改名および合併時期

などをわかる範囲で示した。これらはすべて各公官庁発行の記録書、各メーカーの社史およびホームページなどを参考に作成した。ただし、現在橋梁製作を行っていないメーカーは生産当時の記述にとどめた。

また、各メーカーが製作したおもな橋梁名は社史、あるいは『鉄骨橋梁年鑑』などにより製作した事実が確認できるものとし、なるべく昭和45年(1970)年頃以前のもので単独施工したものを年代順に示した。

さらに、橋歴版の写真や当時の『土木学会誌』、『本邦道路橋輯覧』などに掲載された広告も参考として示した。

〔表-7.2：沿革を示す橋梁製作メーカー〕

資料 No	メーカー	資料 No	メーカー
1	赤羽工作分局	50	(株)東京鐵骨橋梁
3	(株)安藤鉄工所	53	灯明台局
4	石川島播磨重工業(株)	54	富岡機械製造所
4-1	高橋鉄工所	55	東洋火熱工業(株)
4-2	(株)播磨造船所	62	(株)新潟鉄工所
4-3	(株)呉造船所	64	日本橋梁(株)
4-4	名古屋造船(株)	65	日本鋼管(株)
6	内山鉄工所	65-1	(株)浅野造船所
9	梅鉢鉄工所	66	日本車輛製造(株)
10	大阪砲兵工廠	67	日本鉄工(株)
11	(株)大阪造船所	68	日本鉄塔工業(株)
12	大島工業(株)	68-1	(株)服部製作所
16	片山ストラテック(株)	69	函館どつく(株)
17	加藤鉄工所	70	(株)ハルテック
18	川崎重工業(株)	72	(株)日立製作所
18-1	川崎車輛(株)	73	日立造船(株)
18-2	汽車製造(株)	73-1	舞鶴重工業(株)
21	川田工業(株)	75	富士車輛(株)
25	(株)栗本鐵工所	79	松尾橋梁(株)
27	駒井鉄工(株)	81	三田農具製作所
30	(株)サクラダ	82	三井造船(株)
32	佐藤鉄工(株)	83	三菱重工業(株)
35	(株)芝浦製作所	83-1	長崎製鉄所
37	新日本製鉄(株)	83-2	横浜船渠
39	住友重機械工業(株)	85	(株)宮地鐵工所
41	高田機工(株)	86	矢野組
42	瀬上工業(株)	89	(株)横河ブリッジ
43	竹内鐵工所	90	横尾鉄工所
44	田中橋梁	91	吉田鉄工所
48	月島機械(株)	92	渡辺鉄工所
49	鉄道工場		

[表-7.3：調査表書式]

資料 No (表-7.1 の番号)
製作所名：(表-7.1 のメーカー名)
<p>《沿革》</p> <p>① 創立時期や当時の住所 ② 橋梁製作開始時期 ③ 最初に製作した橋梁名 ④ 製作工場の開設，閉鎖時期 ⑤ 改組，改名および合併時期</p> <p>などをわかる範囲で示した。また，これらの内容はすべて各公官庁発行の記録書，各メーカーの社史およびホームページなどによった。また，橋梁製作を現在行っていないメーカーは生産当時の記述にとどめた。</p>
<p>《製作した主な橋梁》</p> <p>上記の③以外の橋名をここには示す。橋梁名は社史，ホームページ，あるいは『鉄骨橋梁年鑑』などに記載されているもので製作した事実が確認できるものとし，なるべく昭和 45 年（1970）頃以前のもので単独施工したものを年代順に示した。また，橋歴版の写真や広告もここに合わせて掲載する。</p>
<p>《資料》</p> <p>参考とした記録書，社史および文献名</p>

[執筆担当：藤井 郁夫，掘井 滋則]

資料 No-1

製作所名：赤羽工作分局

《沿革》

1871(明治4)年12月2日 工部省製鉄寮 設置 (現・東京都港区三田一丁目)
1872(明治5)年10月20日 工部省製作寮と改称
1873(明治6)年12月5日 工部省製作寮 赤羽製作所となる
1877(明治10)年1月11日 工部省工作局 赤羽工作分局と改称
1878(明治11)年 「弾正橋」(現・八幡橋) 製作
1883(明治15)年2月16日 海軍省兵器局に移管

《製作した主な橋梁》

1882(明治15)年 高橋 (東京市)
1882(明治15)年 京橋 (東京市)
1884(明治17)年 浅草橋 (東京市)

《資料》

1)大内兵衛他編：『明治前期財政経済史資料集成 第17巻 工部省沿革報告』
昭和6年9月30日，改造社

資料 No-3

製作所名：(株)安藤鉄工所

《沿革》

1918(大正 7)年 安藤鉄工所 設立 (東京市京橋区月島東仲通五丁目五番地)
第一工場 東京市京橋区月島東仲通四
第二工場 東京市京橋区月島東仲通六
機械工場 東京市京橋区月島東河岸通

1923(大正 12)年 「安谷橋」(埼玉県)

1966(昭和 41)年頃 (株)安藤鉄工所

1975(昭和 50)年頃 倒産

《製作した主な橋梁》

1926(大正 15)年 平山橋 (神奈川県)

1931(昭和 6)年 八木山橋 (宮城県)

1931(昭和 6)年 赤石橋 (宮城県)

1932(昭和 7)年 名取橋 (宮城県)

1932(昭和 7)年 阿武隈橋 (宮城県)

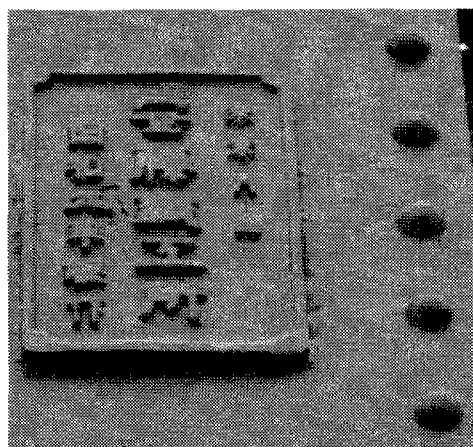
1934(昭和 9)年 新湊橋 (青森県)

1934(昭和 9)年 鳴瀬橋 (宮城県)

1935(昭和 10)年 長浜大橋 (愛媛県)

1938(昭和 13)年 秋ヶ瀬橋 (埼玉県)

1938(昭和 13)年 柴崎橋 (福島県)



[写真-7.2：安藤鉄工所の橋歴版 (赤石橋)]

《資料》

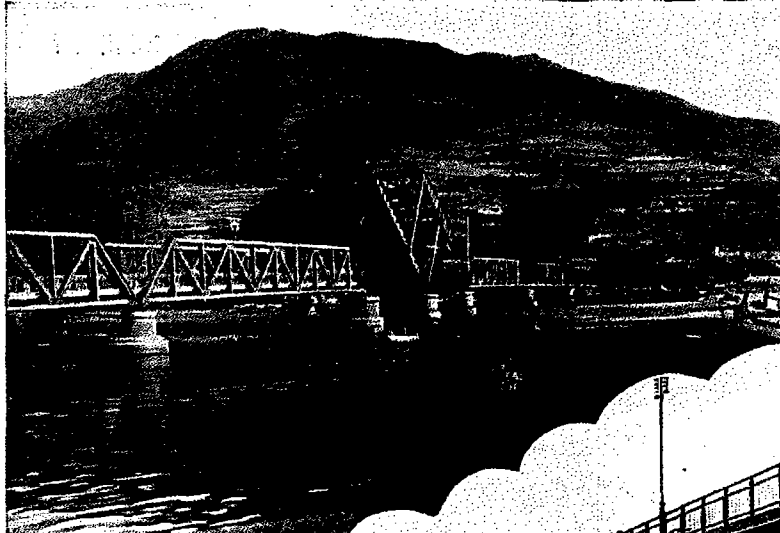
- 1) 安藤儀三(創業者)著：『敢闘の40年』私家版
- 2) 内務省土木試験所：『本邦道路橋輯覧 第三輯』, 広告, 昭和10年11月

營業
品目

鐵骨橋梁、化學工業機械
起重機及輸送機、汽 罐 類
礦山土木機械、一 般 工 事

宮城縣阿武隈橋

トラス徑間 55.000米 7連
ガーダ徑間 18.000米 10連 →
總 長 571.000米
總 重 1.155噸



愛媛縣長濱跳上橋
橋長(橋梁パラハット壁間) 226.000米

有效幅員 5.500米
可動部分
バスキユールガーダー 1連 18.000米
カウンターウエイトガーダー 1連 14.338米
固定部分
ボニールレントラス 5連 37.500米

青森縣八戸市新湊橋

上路式鋼桁橋

有效幅員 8,100米
徑間長 31,000米
全徑間 93,100米 →



安 藤 鐵 工 所

東京市京橋區月島東仲通五丁目五番地
電話京橋(56) 1,718・5,680・8,574 番

[写真-7.3：安藤鐵工所の広告²⁾]

資料 No-4

製作所名：石川島播磨重工業(株)

《沿革》

1853(嘉永6)年12月5日 水戸藩主徳川齊昭が幕命により石川島に 官営石川島造船所 を設立
1868(明治1)年 幕府から明治新政府に移管
1871(明治4)年 兵部省の管轄となる
1872(明治5)年 海軍省の管轄となる
1875(明治8)年 閉鎖
1876(明治9)年10月30日 石川島平野造船所 創業
1879(明治12)年 横浜石川口製鉄所開設 (旧・官営横浜製鉄所を借用して石川島平野造船所の分工場とする)
1883(明治16)年 横浜石川口製鉄所の設備を本社に移設
1883(明治16)年 第1号橋梁として「都橋」(横浜市)を製作、架設
1889(明治22)年1月17日 有限責任 石川島造船所 となる
1893(明治26)年9月21日 (株)東京石川島造船所 となる
1902(明治35)年 鉄道省の橋梁製作工場としての認可取得
1911(明治44)年5月 製品の交換協定を結び電気関係を(株)芝浦製作所に移管
1945(昭和20)年6月20日 石川島重工業(株) となる
1960(昭和35)年 石川島重工業(株)と (株)播磨造船所 が合併し石川島播磨重工業(株) となる
1964(昭和39)年5月1日 名古屋造船所(株) を合併
1968(昭和43)年3月31日 (株)呉造船所 を合併

《製作した主な橋梁》

1886(明治19)年 大江橋 (横浜市)
1887(明治20)年 吾妻橋 (東京市)
1891(明治24)年 御茶ノ水橋 (東京市)
1895(明治28)年 湊橋 (東京市)
1897(明治30)年 永代橋 (東京市)
1903(明治36)年 鉄道院橋梁 (鉄道院)
1905(明治38)年 新淀川橋梁 (阪神電鉄)
1912(明治45)年 餘部橋梁 (鉄道省)
1918(大正7)年 荒川放水水路橋梁 (東武鉄道)
1919(大正8)年 木曾川橋梁 (鉄道省)
1927(昭和2)年 千住大橋 (東京府)
1927(昭和2)年 蔵前橋 (復興局)
1930(昭和5)年 両国橋 (東京市)
1932(昭和7)年 松住町架道橋 (鉄道省)
1940(昭和15)年 勝鬨橋 (東京市)

《資料》

- 1)石川島播磨重工業(株)：『石川島播磨重工業社史』，平成4年4月5日
- 2)石川島播磨重工業(株)ホームページ
- 3)大河戸宗治 他鑑修：『世界橋梁写真集』，シビル社，広告，大正15年12月

東 京 市 京 東 區 島 船 造 所 株式 會 社

電 話 京 橋 一 六 一 二 自 一 八 六 一 二 至 一 七 一 二 自 三 七 一 二 至

鐵道省、復興局
海軍省、陸軍省
指定工場



酒 匂 川 鐵 道 橋
複 線 式 徑 間 百 五 十 尺
鐵 道 省 御 注 文

營 業 課 日 船 汽 汽 鐵 罐 汽 鐵 橋 鐵 骨 建 築 鐵 骨 鐵 管 電 氣 起 重 機 鐵 道 用 諸 機 械 送 電 用 鐵 塔 類 通 信 用 鐵 柱 類 飛 行 機 車 電 動 器 付 諸 機 械 各 種 噴 筒 水 車 瓦 斯 貯 蓄 器 並 附 屬 諸 機 械 水 壓 諸 機 械 空 氣 壓 縮 機、送 風 機

[写真-7.4: 東京石川島造船所の広告3)]

資料 No-4-1

製作所名：高橋鉄工所

《沿革》

1906(明治 39)年 4 月 高橋鉄工所 設立 (東京中央区佃島)
1912(明治 45)年 「新大橋」(東京市)を製作
1944(昭和 19)年 石川島造船所が高橋鉄工所の全株式を買収し大日本精機とする
1949(昭和 24)年 解散

《製作した主な橋梁》

1912(明治 45)年 今川橋 (東京市)
1913(大正 2)年 四ッ谷見附橋 (東京市)

《資料》

1)成瀬輝男：「I H I の橋梁むかし話」, 石川島播磨技報, 平成 2 年, 石川島播磨重工業(株)

資料 No-4-2

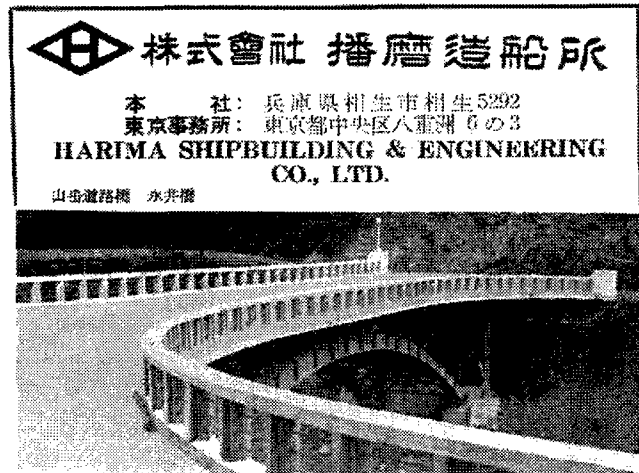
製作所名：(株)播磨造船所

《沿革》

1907(明治 40)年 3 月 11 日 播磨船渠(株)
1911(明治 44)年 1 月 21 日 播磨船渠合名会社
1912(明治 45)年 6 月 2 日 播磨造船(株)
1916(大正 5)年 4 月 (株)播磨造船所 となる
1918(大正 7)年 5 月 帝国汽船(株) 播磨造船所となる
1921(大正 10)年 2 月 15 日 (株)神戸製鋼所 播磨造船工場となる
1922(大正 11)年 片上鉄道鉄道用橋桁を製作
1929(昭和 4)年 11 月 27 日 (株)播磨造船所 となる
1960(昭和 35)年 12 月 1 日 石川島重工業(株) に合併し 石川島播磨重工業(株) となる

《製作した主な橋梁》

1926(大正 15)年 白瀧橋 (大分県)
1926(大正 15)年 四万十川橋 (高知県)
1926(大正 15)年 盛綱橋 (岡山県)
1928(昭和 3)年 穴吹橋 (徳島県)
1930(昭和 5)年 仁淀川橋 (高知県)
1930(昭和 5)年 鐘釣橋 (富山県)
1930(昭和 5)年 土釜橋 (徳島県)
1931(昭和 6)年 天田橋 (和歌山県)
1931(昭和 6)年 六角橋 (佐賀県)
1931(昭和 6)年 萩原橋 (熊本県)
1931(昭和 6)年 瀬高橋 (福岡県)
1932(昭和 7)年 永安橋 (岡山市)
1932(昭和 7)年 相生橋 (広島市)
1933(昭和 8)年 以久田橋 (京都府)
1934(昭和 9)年 船木橋 (三重県)
1951(昭和 26)年 夢前橋 (兵庫県)
1953(昭和 28)年 永井橋 (群馬県)
1955(昭和 30)年 新六ノ橋 (東京都)
1955(昭和 30)年 小岩大橋 (東京都)
1957(昭和 32)年 大正橋 (兵庫県)
1958(昭和 33)年 滝野大橋 (兵庫県)



[写真-7.5：播磨造船所の広告²⁾]

《資料》

- 1) (株)播磨造船所：『播磨造船所 50 年史』, 昭和 35 年 11 月 30 日
- 2) 土木学会：『土木工事写真集』, 広告, 昭和 29 年 10 月 20 日

資料 No-4-3

製作所名：(株)呉造船所

《沿革》

- 1946(昭和 21)年 4 月 1 日 播磨造船所呉船渠 設立
1954(昭和 29)年 9 月 27 日 (株)呉造船所 となり播磨造船所より独立
1954(昭和 29)年 「瀬野大橋」(広島市)
1968(昭和 68)年 3 月 31 日 石川島播磨重工業(株)に合併

《製作した主な橋梁》

- 1954(昭和 29)年 大山橋 (広島県)
1957(昭和 32)年 黒瀬橋 (愛媛県)
1959(昭和 34)年 小幡橋 (京都府)
1959(昭和 34)年 高丸橋 (愛媛県)
1961(昭和 36)年 音戸大橋 (広島県)
1964(昭和 39)年 半の沢橋 (長野県)
1965(昭和 40)年 仁淀川大橋 (高知県)
1966(昭和 41)年 霊台橋 (熊本県)



[写真-7.6：呉造船所の広告²⁾]

《資料》

- 1) 石川島播磨重工業(株)：『石川島播磨重工業社史』，平成 4 年 4 月 5 日
- 2) 建設省道路局監修：『道路橋大鑑』，広告，土木界通信社，昭和 36 年 10 月 30 日

資料 No-4-4

製作所名：名古屋造船(株)

《沿革》

1941(昭和 16)年 6 月 3 日 名古屋造船(株)
1953(昭和 28)年 「沢上陸橋」(名古屋市)
1964(昭和 39)年 5 月 1 日 石川島播磨重工業(株) が吸収合併

《製作した主な橋梁》

1957(昭和 32)年 屋代跨線橋 (長野県)
1963(昭和 38)年 城山橋 (岐阜県)
1964(昭和 39)年 賀々沢橋 (静岡県)

《資料》

1) 石川島播磨重工業(株)：『石川島播磨重工業社史』，平成 4 年 4 月 5 日

資料 No-6

製作所名：内山鉄工所

《沿革》

大阪市北区安治川通北一丁目

《製作した主な橋梁》

1905(明治 38)年 武庫川橋梁 (阪神電鉄)



[写真-7.7：内山鉄工所の広告¹⁾]

《資料》

1) 工業之日本社：『日本工業要鑑』，明治 40 年 2 月

資料 No-9

製作所名：梅鉢鉄工所

《沿革》

1890(明治 23)年	梅鉢安太郎の個人経営として梅鉢鉄工所（工場）創業（大阪府堺市）
1936(昭和 11)年 8 月	梅鉢車輛(株) となる
1941(昭和 16)年 5 月	帝国車両工業(株) と改称
1968(昭和 43)年 3 月 1 日	東急車輛製造(株) に合併

《製作した主な橋梁》

1916(大正 5)年 大和橋 （大阪府堺市）



[写真-7.8：梅鉢鐵工所の広告]

《資料》

1) 東急車輛製造(株)：『東急車輛 30 年のあゆみ』，昭和 53 年 11 月 30 日

資料 No-10

製作所名：大阪砲兵工廠

《沿革》

1870(明治 3)年 2 月	兵部省造兵司を大阪城内に設置
1872(明治 5)年 2 月	大阪製造所 と改称
1875(明治 8)年 2 月	砲兵第二方面砲兵支廠 と改称
1879(明治 12)年 10 月	大阪砲兵工廠 と改称
1880(明治 13)年 6 月 15 日	「新町橋」(徳島市) 完成

《製作した主な橋梁》

《資料》

1) 大阪砲兵工廠：『大阪砲兵工廠沿革史』，明治 35 年 7 月 4 日

資料 No-11

製作所名：(株)大阪造船所

《沿革》

1933(昭和 8)年 東京製鉄(株) 創立
1934(昭和 9)年 大阪造船所 創立
1936(昭和 11)年 (株)大阪造船所 となる
1942(昭和 17)年 東京製鉄(株) を合併

《製作した主な橋梁》

1960(昭和 35)年 河瀬跨線橋 (近畿地方建設局 跨和歌山線橋)
1960(昭和 35)年 冷水跨線橋 (近畿地方建設局 跨紀州西線橋)

《資料》

1) (株)大阪造船所：『大阪造船所 60 年史』，平成 8 年 12 月

資料 No-12

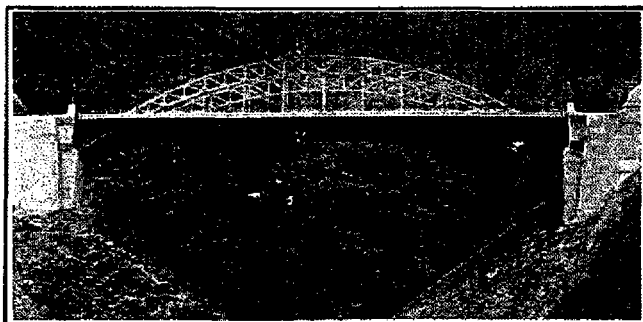
製作所名：大島工業(株)

《沿革》

1923(大正 12)年 3 月 8 日 設立 (神奈川県横浜市南区井土ヶ谷中町 136)

《製作した主な橋梁》

- 1957(昭和 32)年 麦山橋 (東京都)
- 1957(昭和 32)年 吉野沢橋 (群馬県)
- 1966(昭和 41)年 利根川サイホン橋 (群馬県)
- 1966(昭和 41)年 名手橋 (神奈川県)
- 1969(昭和 44)年 かんなん沢橋 (東名自動車道)
- 1969(昭和 44)年 大月橋 (中央自動車道)



東京都 麦山橋 型式 鋼製三鉸拱橋 橋長 96m 幅員 8.4m

営業品目

鉄骨橋梁, 各種水門扉, 水圧鉄管, 水道用鋼管, 大島バルブ, 起重機及輸送機, ポンプ製作, 土木建築, 配管工事

 大島工業株式会社

本社工場 横浜市南区井土ヶ谷中町 136

TEL. (3) 0833~6, 1267

子安工場・追浜工場・化学研究所

[写真-7.9 : 大島工業の広告 1]

《資料》

1) 建設省道路局監修：『道路橋大鑑』, 広告, 土木界通信社, 昭和 36 年 10 月 30 日

資料 No-16

製作所名：片山ストラテック(株)

〈沿革〉

1917(大正 6)年 7 月 13 日 片山商店を創業
1927(昭和 2)年 大阪市大正区南恩加島に本社工場設立
1927(昭和 2)年 「広梅橋」(愛知県)を製作
1934(昭和 9)年 片山鐵工所 と改称
1941(昭和 16)年 7 月 株式会社に改組, (株)片山鐵工所 と改称
1953(昭和 28)年 10 月 国鉄の認定工場となり鉄道桁の製作を開始
1960(昭和 35)年 東京工場(江東区塩浜)を開設
1963(昭和 38)年 香里工場(大阪府寝屋川市)を開設
1964(昭和 39)年 東京工場を埼玉県大里郡江南村に移転
1973(昭和 48)年 香里工場を閉鎖
1992(平成 4)年 10 月 片山ストラテック(株) に社名変更

〈製作した主な橋梁〉

1963(昭和 38)年 魚梁瀬第四号橋 (高知県)
1963(昭和 38)年 綿田跨線橋 (中国地建)
1963(昭和 38)年 初瀬橋 (岡山県)
1963(昭和 38)年 貴船橋 (近畿地建)
1964(昭和 39)年 北橋 (大阪市)
1965(昭和 40)年 打越橋 (中国地建)
1965(昭和 40)年 御楯橋 (東京都)

〈資料〉

- 1) (株)片山鐵工所：『片山鐵工所 40 年略史』, 昭和 56 年 7 月 17 日
- 2) (株)片山鐵工所：『片山鐵工所 50 年史』, 平成 3 年

資料 No-17

製作所名：加藤鉄工所

《沿革》

埼玉県小川町

《製作した主な橋梁》

1925(大正 14)年 瀧の鼻橋 (埼玉県)

《資料》

資料 No-18

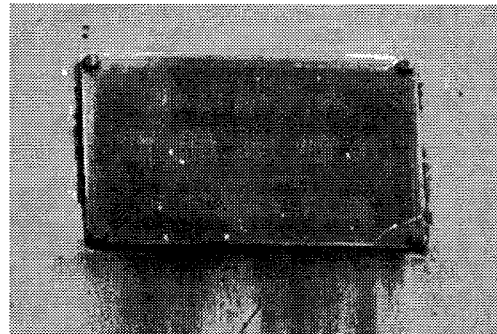
製作所名：川崎重工業(株)

《沿革》

1862(文久2)年2月	加賀藩により 七尾軍艦所 開設 (石川県七尾)
1869(明治2)年4月	バルカン鉄工所 を開設 (神戸市東川崎)
1869(明治2)年8月	七尾軍艦所の設備を移設し、兵庫製鉄所〔俗称 加州製鉄所〕を神戸市川崎浜に開設
1871(明治4)年2月	工部省 製作寮 兵庫製作所 を開設
1872(明治5)年1月	工部省が 兵庫製鉄所 を買収
1873(明治6)年4月	工部省が バルカン鉄工所 を買収
1877(明治10)年1月11日	工部省 兵庫工作分局 と改称
1878(明治11)年	川崎築地造船所 創業 (東京築地)
1881(明治14)年	川崎兵庫造船所 設置 (神戸市兵庫)
1881(明治14)年	神戸小野浜造船所 開設
1883(明治16)年9月	兵庫造船局 と改称
1885(明治18)年2月	兵庫造船所 と改称
1886(明治19)年4月28日	兵庫造船所 を川崎正蔵に貸下げ
1886(明治19)年5月19日	川崎造船所 と改称
1886(明治19)年10月15日	(株)川崎造船所となる
1887(明治20)年7月	工部省兵庫工作分局 の払い下げを受ける
1906(明治39)年	兵庫工場設置
1907(明治40)年	鉄道用橋梁の生産開始
1910(明治43)年	「呉服橋架道橋」(山手線)
1928(昭和3)年5月	川崎車輛(株) 設立 (それまでの兵庫工場)
1937(昭和12)年	川崎車輛(株) の橋梁生産を停止し川崎造船所に移す
1939(昭和14)年12月1日	川崎重工業(株) に社名変更
1950(昭和25)年8月	製鉄部門を分離し、川崎製鉄(株) を設立
1961(昭和36)年	鉄構事業部発足
1962(昭和37)年2月	加古川工場開設
1964(昭和39)年	野田工場開設
1969(昭和44)年4月1日	川崎重工、川崎航空機、川崎車輛の3社が合併し新たに川崎重工業(株)として発足、生浜工場開設
1971(昭和46)年	播磨工場開設
1972(昭和47)年4月1日	汽車製造(株)を合併
1974(昭和49)年	生浜工場を野田工場に集約
1980(昭和55)年	加古川工場を播磨工場に集約
1987(昭和62)年	袖ヶ浦工場開設

《製作した主な橋梁》

1888(明治 21)年	大和川橋梁	(阪堺鉄道)
1891(明治 24)年	太古橋	(神戸市)
1909(明治 42)年	木津川橋梁	(京阪電鉄)
1911(明治 44)年	六郷川橋梁	(京浜急行)
1914(大正 3)年	富雄川橋梁	(近鉄奈良線)
1915(大正 4)年	大井川橋梁	(東海道本線)
1915(大正 4)年	天竜川橋梁	(東海道本線)
1916(大正 5)年	富士川橋梁	(東海道本線)
1924(大正 13)年	三面川橋梁	(羽越本線)
1926(大正 15)年	永代橋	(復興局)
1926(大正 15)年	村山橋	(長野県)
1928(昭和 3)年	清洲橋	(復興局)
1928(昭和 3)年	澱川橋梁	(近鉄京都線)
1931(昭和 6)年	白鬚橋	(東京府)
1951(昭和 26)年	大門橋	(徳島県)
1953(昭和 28)年	中央大橋	(徳島県)
1954(昭和 29)年	牛越橋	(仙台市)
1964(昭和 39)年	氏家大橋	(栃木県)
1966(昭和 41)年	松島橋	(熊本県)
1968(昭和 43)年	南島大橋	(三重県)



[写真-7.10：川崎造船所の橋歴版（村山橋）]



造船・造機・鉄構・電機
鉄橋・鉄骨・鉄塔
セメント機械・水圧鉄管
発電用水車・門扉
KAWASAKI HEAVY
INDUSTRIES CO., LTD.

徳島中央大橋

川崎重工業
本社 神戸・支店 東京

[写真-7.11：川崎重工業の広告³⁾]

《資料》

- 1) 川崎重工業(株)：『川崎重工業(株)百年史』，1997年6月
- 2) 川崎重工業(株)ホームページ
- 3) 土木学会：『土木工事写真集』，広告，昭和29年10月20日

資料 No-18-1

製作所名：川崎車輛(株)

《沿革》

1928(昭和 3)年 5 月 川崎車輛(株) 設立 [それまでの(株)川崎造船所兵庫工場]
1928(昭和 3)年 橋梁の生産を開始
1929(昭和 4)年 「第一神通川橋梁」(高山線)
1937(昭和 12)年末 橋梁生産を停止し川崎造船所に移す
1969(昭和 44)年 4 月 1 日 川崎重工, 川崎航空機, 川崎車輛の 3 社が合併し川崎重工業(株)となる

《製作した主な橋梁》

1930(昭和 5)年 第二神通川橋梁 (高山線)
1930(昭和 5)年 松代橋 (東京市)
1931(昭和 6)年 大安寺橋 (長野県)
1932(昭和 7)年 天竜川橋梁 (飯田線)
1932(昭和 7)年 上大和川橋梁 (関西本線)
1933(昭和 8)年 青柳橋 (大阪市)
1935(昭和 10)年 吉野川橋梁 (高德線)
1935(昭和 10)年 吉野川橋梁 (土讃線)
1935(昭和 10)年 第一吉野川橋梁 (土讃線)
1935(昭和 10)年 田端跨線橋 (東京府)
1936(昭和 11)年 水郷大橋 (千葉県)
1939(昭和 14)年 第一大野川橋梁 (豊肥本線)
1940(昭和 15)年 勝鬨橋 (東京市)
1955(昭和 30)年 西灘陸橋 (神戸市)

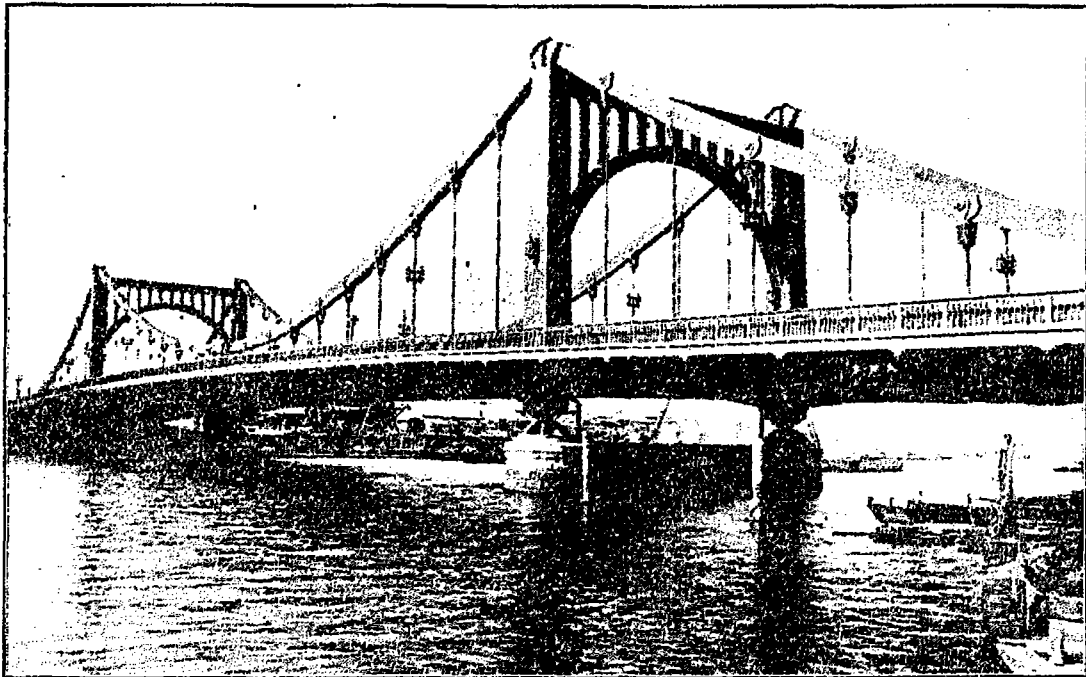
《資料》

- 1) 川崎重工業(株)車両事業本部:『車輛とともに明日を拓く兵庫工場 90 年史』,平成 9 年 4 月 15 日
- 2) 川崎重工業(株)ホームページ
- 3) 土木学会誌, 第 15 卷第 6 号, 広告, 昭和 4 年 6 月

川崎車輛株式會社

本社 神戸市和田山通壹丁目六番地
電話兵庫 32 區 33-37

出張所 東京市麴町區丸ノ内郵船ビル 620 號
電話丸ノ内 2075-2076



清洲橋 (復興局御用)

營業品目

陸海軍御用	鋼材用鋼塊	鍛鋼品	合金製品	鑄鋼鑄鐵品	建築用鋼材	鋼橋桁	乘合自動車	客貨車	電動客貨車	電氣機關車	蒸汽機關車	鐵道省御用

[写真-7.12:川崎車輛の広告³⁾]

資料 No-18-2

製作所名：汽車製造(株)

《沿革》

(平岡工場)

1890(明治 23)年 3 月	平岡工場 創立 (東京砲兵工廠内)
1896(明治 29)年 4 月	平岡工場 東京本所錦糸町に工場
1896(明治 29)年	鉄道用桁製作
	(汽車製造)
1896(明治 29)年 9 月 7 日	井上勝らが 汽車製造合資会社 を設立
1898(明治 31)年	島屋村 (大阪市) の工場が竣工
1899(明治 32)年 7 月 5 日	大阪汽車製造合資会社と改名し開業
1900(明治 33)年	橋桁の生産を開始, 「新店溪橋梁」(台湾総督府鉄道部, プレート ガーダー 6 連) を製作 (台北分工場)
1901(明治 34)年 5 月 1 日	平岡工場と正式に合併し再度, 汽車製造合資会社に改名
1902(明治 35)年	東京市街線用プレートガーダー製作
1904(明治 37)年	初めてのトラス橋「大肚溪橋梁」(台湾総督府鉄道部) を製作
1912(明治 45)年 6 月 18 日	汽車製造(株) に改組
1943(昭和 18)年	岡山工場操業開始
1950(昭和 25)年	岡山製作所を閉鎖
1972(昭和 47)年 4 月 1 日	川崎重工業(株)に吸収される

《製作した主な橋梁》

1908(明治 41)年	肥後橋 (大阪市)
1908(明治 41)年	渡辺橋 (大阪市)
1910(明治 43)年	末吉橋 (大阪市)
1911(明治 44)年	江戸川橋 (常磐線)
1911(明治 44)年	吉野川橋 (高知県)
1912(明治 45)年	桂川橋梁 (東海道本線)
1913(大正 2)年	本町橋 (大阪市)
1915(大正 4)年	天竜川橋梁 (東海道本線)
1915(大正 4)年	大井川橋梁 (東海道本線)
1915(大正 4)年	富士川橋梁 (東海道本線)
1917(大正 6)年	名取川橋梁 (東北本線)
1920(大正 9)年	郷川橋梁 (山陰本線)
1922(大正 11)年	淀川橋梁 (阪神電鉄)
1923(大正 12)年	上淀川橋梁 (東海道本線)
1924(大正 13)年	北上川橋梁 (大船渡線)
1924(大正 13)年	相生橋 (復興局)
1927(昭和 2)年	駒形橋 (復興局)
1928(昭和 3)年	第一白川橋梁 (高森線)
1928(昭和 3)年	岩崎運河橋梁 (大阪環状線)
1930(昭和 5)年	桜宮橋 (大阪市)
1932(昭和 7)年	旭橋 (旭川市)
1933(昭和 8)年	花宗川橋梁 (佐賀線)
1935(昭和 10)年	吉野川橋梁 (高德線)
1935(昭和 10)年	丸一橋 (大阪市)
1938(昭和 13)年	第一只見川橋梁 (只見線)



[写真-7.13：汽車製造の橋歴版（桜宮橋）]

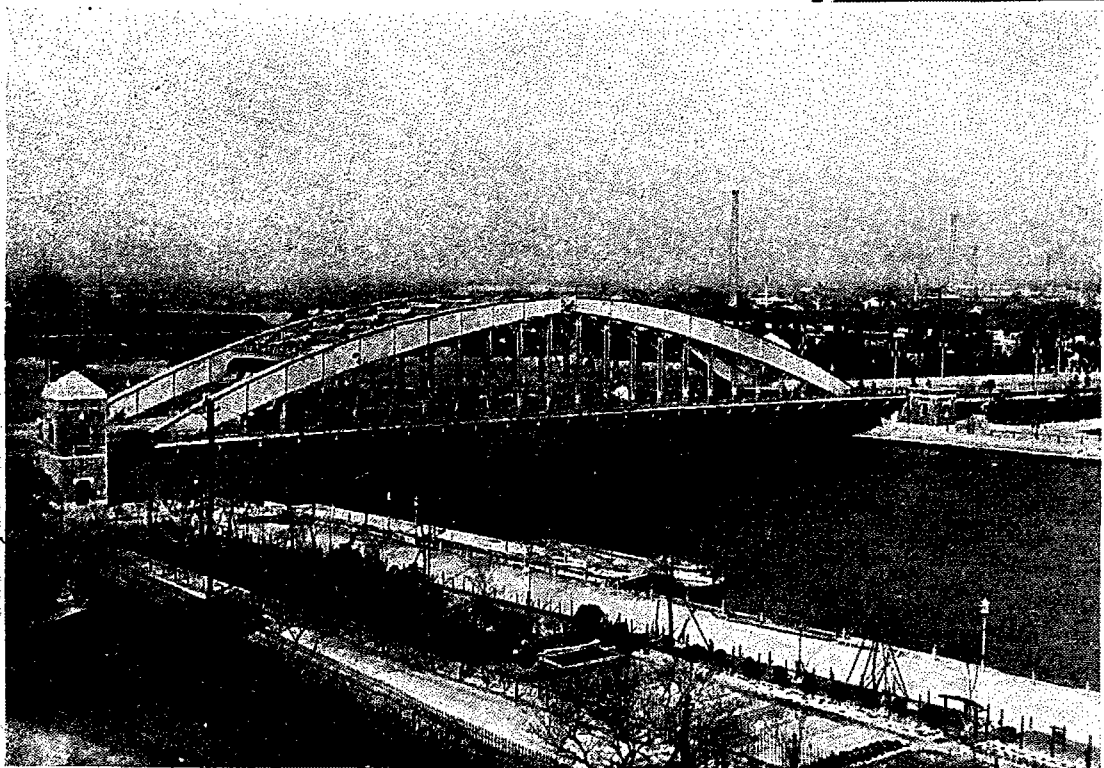
《資料》

- 1) 編集委員会：『汽車会社蒸気機関車製造史』, 交友社, 昭和 47 年 4 月 10 日
- 2) 内務省土木試験所：『本邦道路橋輯覧 第四輯』, 広告, 昭和 14 年 4 月



汽車製造株式會社

本店 東京市麴町區丸ノ内ビルディング
 大阪支店及大阪工場 大阪市此花區島屋町406番地
 東京支店及東京工場 東京市城東區南砂町652番地



大阪市・櫻宮橋 全長 104 m

主要製品

大阪工場

機關車（蒸氣、電氣、內燃機）
 陸用罐、ストーカ、鐵板製品
 橋梁及鐵骨、工作機械

東京工場

客車、電車、內燃動車、貨車
 採金船及鑛業用諸機械
 轉轍器及轍叉、鋼製建具

[写真-7.14：汽車製造株式會社の廣告²⁾]

資料 No-21

製作所名：川田工業(株)

《沿革》

1922(大正 11)年 川田忠太郎が 川田鉄工所 を創業
1928(昭和 3)年 富山県福野町に工場建設
1940(昭和 15)年 北陸産業(株)となる
1949(昭和 24)年 北陸車輛(株)に社名変更
1952(昭和 27)年 川田工業(株)に社名変更
1956(昭和 31)年 「川崎橋」(富山県)
1958(昭和 33)年 栃木工場操業開始
1973(昭和 48)年 四国工場操業開始, 第一号橋梁として「阿波座第4工区」(阪神公団)を製作
1982(昭和 57)年 東京本社開設

《製作した主な橋梁》

1958(昭和 33)年 大渡橋 (富山県)
1958(昭和 33)年 猪谷橋 (富山県)
1959(昭和 34)年 川原平橋 (青森県)
1960(昭和 35)年 大石橋 (岩手県)
1963(昭和 38)年 新三国大橋 (群馬県)
1964(昭和 39)年 黒部川橋梁 (北陸本線)
1964(昭和 39)年 稲沢跨線橋 (名神自動車道)
1965(昭和 40)年 槇木沢橋 (岩手県)
1966(昭和 41)年 下黒部橋 (富山県)
1968(昭和 43)年 矢田川橋 (東名自動車道)
1968(昭和 43)年 柳沢第一橋 (東名自動車道)
1969(昭和 44)年 関野橋 (中央自動車道)

《資料》

1) 川田工業(株)ホームページ

資料 No-25

製作所名：(株)栗本鐵工所

《沿革》

1909(明治 42)年 2 月 2 日 合資会社 栗本鐵工所 創立
1914(大正 9)年 5 月 (株)栗本鐵工所 となる
1961(昭和 36)年 「井阪橋」(和歌山県)

《製作した主な橋梁》

1962(昭和 37)年 馬形橋 (鹿児島県)
1963(昭和 38)年 陶化橋 (京都市)
1964(昭和 39)年 豊浜大橋 (三重県)
1965(昭和 40)年 新濁川橋 (三重県)
1967(昭和 42)年 武並橋 (岐阜県)
1968(昭和 43)年 古座大橋 (和歌山県)
1968(昭和 43)年 堰沢橋 (東名自動車道)
1968(昭和 43)年 新制橋 (中央自動車道)
1969(昭和 44)年 大島橋 (新潟県)

《資料》

資料 No-27

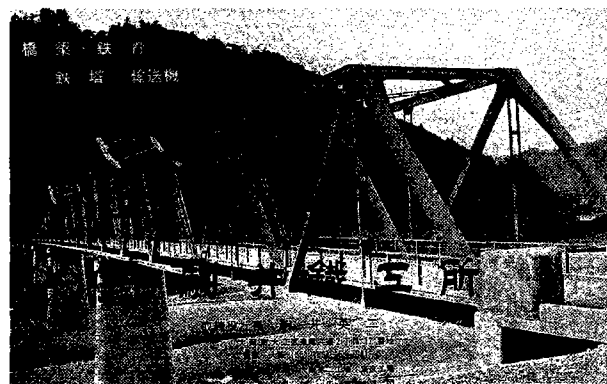
製作所名：駒井鉄工(株)

《沿革》

- 1883(明治 16)年 建築金物商「駒井喜商店」として大阪市東区大川町(明治 35 年に東区高麗橋へ移転)で創業
- 1905(明治 38)年 大阪市福島区浦江に工場建設(浦江工場)
- 1919(大正 8)年 大阪市大正区泉尾へ工場移転(大正工場), 合資会社駒井喜鉄工所へ改組
- 1914(大正 3)年 最初の橋梁工事として「紀ノ川橋梁」(加太電鉄)を施工
- 1943(昭和 18)年 株式会社に改組, (株)駒井鉄工所となる
- 1954(昭和 29)年 東京都大田区に東京羽田工場開設
- 1960(昭和 35)年 大阪市港区福崎へ大阪港工場開設
- 1962(昭和 37)年 千葉県松戸市に東京松戸工場開設
- 1964(昭和 39)年 大阪での生産主力を, 大正工場から大阪港工場へ移転
- 1967(昭和 42)年 東京羽田工場を閉鎖し, 東京松戸工場へ移転
- 1969(昭和 44)年 大阪市西淀川区に大阪外島工場開設
- 1979(昭和 54)年 港工場を閉鎖し, 外島工場(現大阪工場)へ移転
- 1989(平成元年) 駒井鉄工(株)に社名変更
- 1995(平成 7)年 千葉県富津市に富津工場開設, 松戸工場より移転

《製作した主な橋梁》

- 1929(昭和 4)年 伊佐橋 (兵庫県)
- 1931(昭和 6)年 八王子橋 (新潟県)
- 1931(昭和 6)年 五反田橋 (新潟県)
- 1931(昭和 6)年 姫川橋 (新潟県)
- 1935(昭和 10)年 池田橋 (徳島県)
- 1936(昭和 11)年 上船津橋 (大阪市)
- 1936(昭和 11)年 汐合橋 (三重県)
- 1937(昭和 12)年 玉造橋 (大阪市)
- 1950(昭和 25)年 蒼生橋 (石川県)
- 1954(昭和 29)年 江別橋 (北海道)
- 1958(昭和 33)年 江代橋 (熊本県)
- 1960(昭和 35)年 敷屋大橋 (電源開発)
- 1962(昭和 37)年 愛宕跨線橋 (広島市)
- 1963(昭和 38)年 備前大橋 (岡山県)
- 1965(昭和 40)年 堀之内橋 (新潟県)
- 1966(昭和 41)年 新福崎橋 (大阪市)
- 1969(昭和 44)年 諸瀨橋 (東名自動車道)



[写真-7.15：駒井鉄工所の広告²⁾(敷屋大橋)]

《資料》

- 1) (株)駒井鉄工所：『駒井鉄工所 90 年史』, 昭和 49 年
- 2) 建設省道路局監修：『道路橋大鑑』, 広告, 土木界通信社, 昭和 36 年 10 月 30 日

資料 No-30

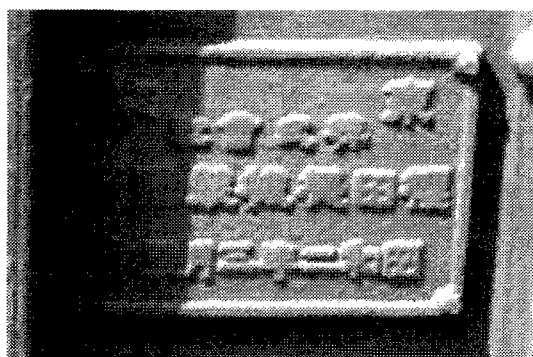
製作所名：(株)サクラダ

《沿革》

1901(明治 34)年 櫻田機械製造所 として発足
1914(大正 3)年 1 月 21 日 登記
1915(大正 4)年 8 月 20 日 砂町工場(当時は砂村工場)開設
1920(大正 9)年 4 月 20 日 (株)櫻田機械製造所 に改組
1922(大正 11)年 橋梁生産開始, 「九年橋」(仙台土木出張所)
1944(昭和 19)年 9 月 20 日 櫻田機械工業(株) と改称
1964(昭和 39)年 11 月 1 日 市川工場開設
1968(昭和 43)年 4 月 1 日 砂町工場閉鎖, 八千代工場開設
1990(平成 2)年 4 月 (株)サクラダ に改称
2000(平成 12)年 3 月 八千代工場閉鎖

《製作した主な橋梁》

1923(大正 12)年 篠ノ井橋 (長野県)
1925(大正 14)年 上田橋 (長野県)
1926(大正 15)年 平久橋 (東京市)
1927(昭和 2)年 新永久橋 (東京市)
1928(昭和 3)年 笛吹川橋梁 (身延線)
1928(昭和 3)年 花園橋 (横浜市)
1929(昭和 4)年 村山橋 (山形県)
1930(昭和 5)年 大石田橋 (山形県)
1931(昭和 6)年 水神橋 (長野県)
1932(昭和 7)年 丹波島橋 (長野県)
1933(昭和 8)年 千登世橋 (東京府)
1933(昭和 8)年 珊瑚橋 (岩手県)
1934(昭和 9)年 遠軽橋 (北海道)
1935(昭和 10)年 江別大橋 (北海道)
1936(昭和 11)年 運河橋 (北海道)
1941(昭和 16)年 小松川橋 (東京府)
1946(昭和 21)年 草谷橋 (東京都)
1949(昭和 24)年 調練橋 (東京都)
1950(昭和 25)年 芦迺瀬橋 (奈良県)
1951(昭和 26)年 上今井橋 (長野県)
1952(昭和 27)年 四ツ木橋 (関東地建)
1955(昭和 30)年 行徳橋 (関東地建)
1957(昭和 32)年 綾瀬橋 (東京都)
1958(昭和 33)年 不動沢橋 (道路公団)
1959(昭和 34)年 安田橋 (新潟県)
1960(昭和 35)年 金ヶ崎橋 (岩手県)
1962(昭和 37)年 内大臣橋 (熊本県)



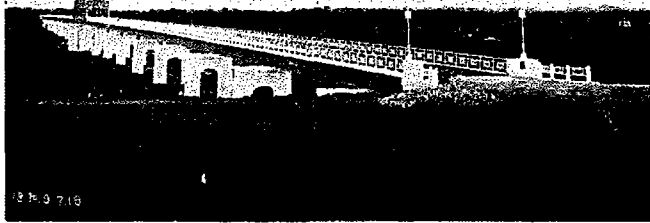
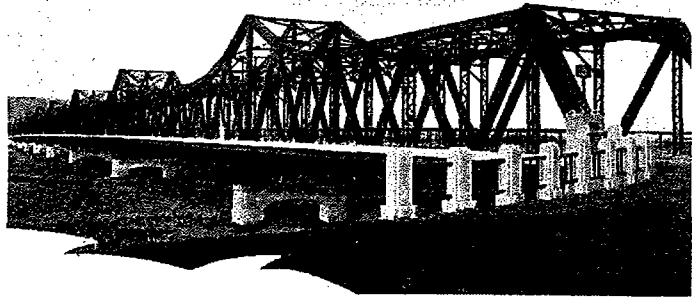
[写真-7.16：櫻田機械製造所の橋歴版(平久橋)]

《資料》

- 1) 櫻田機械工業(株)：『櫻田機械工業 60 年史』, 昭和 56 年 4 月
- 2) 内務省土木試験所：『本邦道路橋輯覧 第三輯』, 広告, 昭和 10 年 11 月

弊社施工

丹波島橋(長野縣)



昭和三十七年

同治水橋(埼玉縣)



株式會社

櫻田機械製造所

營業所 東京市京橋區銀座一丁目三番地

電話京橋

二四四〇〇七七一〇七番番番

工場 東京市城東區北砂町六丁目

電話本所

三三六六八八八九番番番

營業科目

橋梁鋼桁
鐵骨建築
水壓鐵管
各種昇降機
各種起重機
鐵道用諸機械

陸海軍用機械
一般諸機械
鐵塔鐵柱
特許チャンネルポール
電弧銲接工事一式
土木工事一式

[写真-7.17：櫻田機械製造所の広告²⁾]

資料 No-32

製作所名：佐藤鉄工(株)

《沿革》

1907(明治 40)年 6 月 23 日 富山鉄工所 創業
1913(大正 2)年 佐藤組鉄工所 となる
1927(昭和 2)年 稲荷町工場 開設
1931(昭和 6)年 7 月 30 日 佐藤工業(株) 設立 鉄工部 となる
1948(昭和 23)年 1 月 1 日 佐藤工業 富山工場 となる
1971(昭和 46)年 6 月 8 日 立山工場 開設
1973(昭和 48)年 12 月 1 日 佐藤鉄工(株) となる
1996(平成 8)年 6 月 28 日 大谷桜井鉄工(株)から橋梁事業部を引き継ぐ

《製作した主な橋梁》

(佐藤組)

1930(昭和 5)年 福光橋 (富山県)
1934(昭和 9)年 桜橋 (富山市)

(佐藤工業)

1962(昭和 37)年 奥鐘橋 (富山県)
1967(昭和 42)年 欄宜ヶ沢上橋 (岐阜県)
1967(昭和 42)年 祖父谷橋 (富山県)
1969(昭和 44)年 豊隆橋 (富山県)
1969(昭和 44)年 砺波大橋 (富山県)
1972(昭和 47)年 有沢橋 (富山県)

(佐藤鉄工)

1974(昭和 49)年 足羽川橋 (道路公団)
1975(昭和 50)年 上滝橋梁 (富山地方鉄道)
1976(昭和 51)年 福羅部橋 (秋田県)

《資料》

1) 佐藤鉄工(株)：『佐藤鉄工 85 年史』，平成 8 年 11 月 1 日

資料 No-35

製作所名：(株)芝浦製作所

《沿革》

1875(明治 8)年	田中製作所 創立(現・東京都中央区銀座 8-1)
1878(明治 11)年	工部省電信寮 に吸収される
1882(明治 15)年 8 月	田中製造所 を再設立
1886(明治 19)年	東京芝区金杉新浜町一番地に工場を新設
1893(明治 26)年 3 月	「西の橋」(横浜市)
1893(明治 26)年 11 月 17 日	芝浦製作所となる
1894(明治 27)年	三井工業部芝浦製作所 と改称
1904(明治 37)年	(株)芝浦製作所 となる
1911(明治 44)年	製品の交換協定を行い、橋梁を含む鋼構造物は(株)東京石川島造船所に移管
1939(昭和 14)年 5 月	東京芝浦電機(株) となる
1984(昭和 59)	(株)東芝 となる

《製作した主な橋梁》

1901(明治 34)年	利根橋	(群馬県)
1903(明治 36)年	万世橋	(東京市)
1904(明治 37)年	万国橋	(横浜市)



[写真-7.18：芝浦製作所の広告²⁾]

《資料》

- 1) 東京芝浦電機(株)：『芝浦製作所六十五年史』，昭和 15 年 4 月 30 日
- 2) 工談会：『工談雑誌』，第 13 卷第 201 号

資料 No-37

製作所名：新日本製鐵(株)

《沿革》

- | | |
|-----------------------|---|
| 1896(明治 29)年 3 月 | 官営八幡製鐵所開設 |
| 1901(明治 34)年 | 官営八幡製鐵所創業開始 |
| 1934(昭和 9)年 1 月 29 日 | 日本製鐵(株)となる [官営八幡製鐵所, 輸西製鐵(株), 釜石鉱山(株) 三菱製鐵(株), 富士製鋼(株), 九州製鋼(株), 東洋製鐵(株)との製鐵 合同による] |
| 1950(昭和 25)年 | 日本製鐵(株)を解体, 八幡製鐵(株)と富士製鐵(株)が発足 |
| 1970(昭和 45)年 3 月 31 日 | 八幡製鐵(株)と富士製鐵(株)が合併し, 新日本製鐵(株)となる 鉄構事業部を設置 |
| 1974(昭和 49)年 6 月 | 長大橋梁部を設置 |

《製作した主な橋梁》

- | | | |
|--------------|-------|--------|
| 1927(昭和 2)年 | 南河内橋 | (北九州市) |
| 1930(昭和 5)年 | 枝光橋 | (北九州市) |
| 1955(昭和 30)年 | 北車輛門橋 | (北九州市) |
| 1970(昭和 45)年 | 境川橋 | (北九州市) |
| 1972(昭和 47)年 | 新枝光橋 | (北九州市) |

《資料》

- 1) 新日本製鐵(株):『炎とともに』, 昭和 56 年 3 月 31 日
- 2) 新日本製鐵八幡製鐵所:『八幡製鐵所土木誌』, 昭和 51 年 11 月
- 3) 新日本製鐵(株)ホームページ

資料 No-39

製作所名：住友重機械工業(株)

《沿革》

1853(嘉永 6)年	幕府 浦賀造船所 開設
1872(明治 5)年	海軍省造船局出張所となる
1896(明治 29)年 9 月 28 日	浦賀船渠(株) 設立
1904(明治 37)年	鉄道用プレートガーダーを製作
1962(昭和 37)年 11 月	浦賀重工業(株) となる
1969(昭和 44)年 6 月 30 日	住友機械(株) と合併して 住友重機械工業(株) となる
1971(昭和 46)年	東予工場 稼動
1983(昭和 58)年	追浜工場に鉄構橋梁工場 設置

《製作した主な橋梁》

(浦賀船渠)

1920(大正 9)年	新港橋梁 (横浜港)
1927(昭和 2)年 7 月 28 日	葛飾橋 (千葉県)
1927(昭和 2)年 12 月 2 日	市川橋 (千葉県)
1930(昭和 5)年 9 月 21 日	大利根橋 (茨城県)
1960(昭和 35)年	三瀧川橋 (三重県)

(浦賀重工業)

1963(昭和 38)年	柏尾橋 (長野県)
1964(昭和 39)年	豊玉陸橋 (東京都)
1965(昭和 40)年	割石第一橋 (岐阜県)
1966(昭和 41)年	飛田第二橋 (中央自動車道)
1967(昭和 42)年	湯川橋 (群馬県)

(住友重機械工業)

1969(昭和 44)年	富沢橋 (道路公団)
--------------	------------

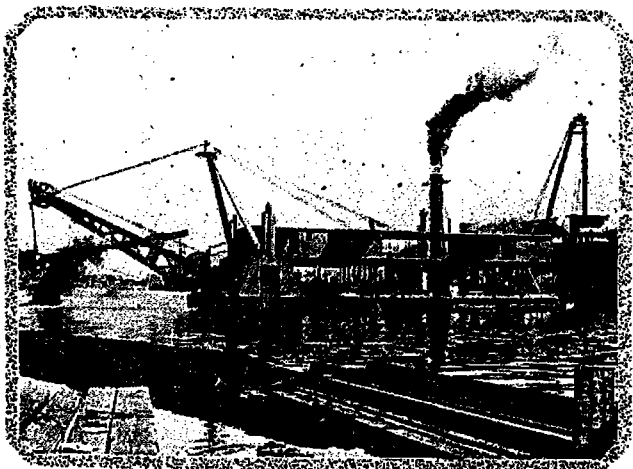
《資料》

- 1) 浦賀船渠(株)：『浦賀船渠六十年史』，昭和 32 年 6 月 21 日
- 2) 住友重機械工業(株)：『浦賀・追浜百年の軌跡』，平成 9 年 6 月 21 日
- 3) 土木学会誌，第 14 巻第 5 号，広告，昭和 3 年 10 月

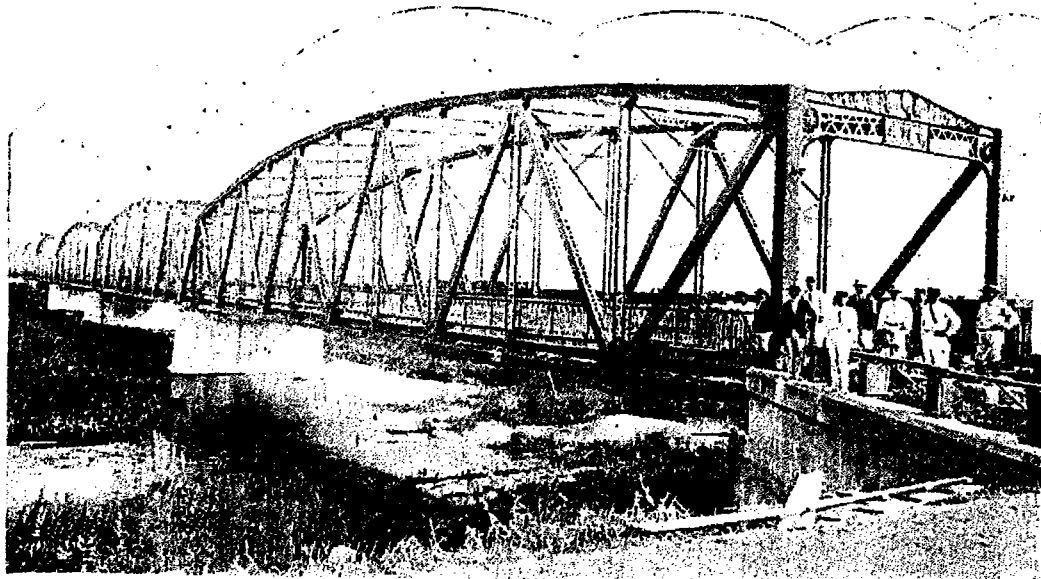


業 營 課 目

各種船舶新造並修理。陸
用船用汽機汽機。各種鐵
橋梁。鐵骨建築。發電用
水壓鐵管。送電用鐵塔。
各種タンク類。諸鐵鋼品
鍛造品。
其他鐵工諸品。



千葉縣銚子漁港修築事務所攝揚式渡渡船



千葉縣市川橋

浦 賀 船 渠 株 式 會 社

本 社 東京市趣町區永樂町一丁目一番地
浦賀工場 神奈川縣三浦郡浦賀町谷戸
橫濱工場 橫濱市大野町二番地
大阪出張所 大阪市北區宗是町一番地大阪ビルデング

[写真-7.19：浦賀船渠の広告³⁾]

資料 No-41

製作所名：高田機工(株)

《沿革》

1932(昭和7)年3月1日 (株)高田鉄骨橋梁製作所 を設立 (大阪市港区福町)
1934(昭和9)年 「美々津橋」(宮崎県)
1935(昭和10)年11月3日 高田商事(株)となる (大阪市北区中之島6丁目12)
1938(昭和13)年 津守工場(大阪市西成区)開設
1939(昭和14)年10月 高田機工(株)となる (東京市芝区田村町一番地)
1964(昭和39)年 岸和田工場開設
1964(昭和44)年 岸和田工場に橋梁生産を集約
1975(昭和50)年 津守工場を閉鎖
1993(平成5)年4月 岸和田工場を閉鎖し和歌山工場を開設

《製作した主な橋梁》

1936(昭和11)年 宮ノ越橋 (滋賀県)
1950(昭和25)年 九頭龍川橋 (福井県)
1953(昭和28)年 瀧谷川橋 (福島県)
1954(昭和29)年 月見橋 (岡山県)
1954(昭和29)年 第二日川橋梁 (豊肥本線)
1955(昭和30)年 住之江橋 (佐賀県)
1955(昭和30)年 国領橋 (愛媛県)
1956(昭和31)年 綾川橋 (香川県)
1957(昭和32)年 子飼橋 (熊本県)
1958(昭和33)年 友淵橋 (大阪市)
1962(昭和37)年 坂東大橋 (大阪市)
1963(昭和38)年 新京橋 (岡山県)
1964(昭和39)年 琵琶湖大橋 (滋賀県)
1969(昭和44)年 葛野川橋 (中央自動車道)

《資料》

- 1) 高田機工社史編集委員会：『高田機工五十年史』，昭和57年5月1日
- 2) 高田機工技報編集委員会：『高田機工技報』，No13，1997
- 3) 高田機工技報編集委員会：『高田機工技報』，No7，1991

資料 No-42

製作所名：瀧上工業(株)

《沿革》

1895(明治 28)年 10 月 瀧上卯内が名古屋市西区外田町で鍛冶定(個人経営)を創業
1916(大正 5)年 合名会社 瀧上鐵工所 に改組
1934(昭和 9)年 中川区清船町に第 1 工場を開設
1937(昭和 12)年 2 月 瀧上鐵骨鐵筋工業(株)を設立, 中川区清川町に第 2 工場を開設
1939(昭和 14)年 11 月 社名を 瀧上工業(株) に改称
1947(昭和 22)年 第 1 号橋梁として「今伊勢跨線橋」(愛知県)を製作, 架設
1963(昭和 38)年 5 月 半田工場操業開始
1985(昭和 60)年 3 月 半田第二工場竣工

《製作した主な橋梁》

1953(昭和 28)年 横山橋 (静岡県)
1956(昭和 31)年 万世橋 (静岡県)
1956(昭和 31)年 弁天橋 (愛知県)
1956(昭和 31)年 衣浦大橋 (愛知県)
1957(昭和 32)年 万世橋 (東京都)
1957(昭和 32)年 第七只見川橋梁 (只見線)
1959(昭和 34)年 日の出橋 (東京都)
1960(昭和 35)年 長良川橋梁 (東海道本線)
1961(昭和 36)年 松川橋 (愛知県)
1963(昭和 38)年 羽島大橋 (岐阜県)
1964(昭和 39)年 第二六番町橋梁 (東海道新幹線)
1964(昭和 39)年 酒匂川橋梁 (東海道新幹線)
1965(昭和 40)年 安倍川橋梁 (東海道本線)
1967(昭和 42)年 棚尾橋 (愛知県)
1967(昭和 42)年 南武跨線橋 (中央自動車道)
1969(昭和 44)年 矢作川橋 (東名自動車道)
1969(昭和 44)年 愛岐大橋 (岐阜県)

《資料》

1) 瀧上工業(株):『瀧上工業五十年史』, 昭和 62 年 10 月

資料 No-43

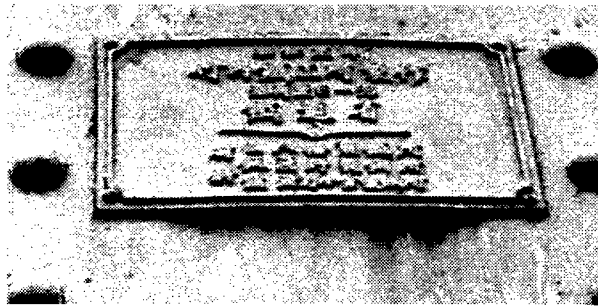
製作所名：竹内鐵工所(株)

《沿革》

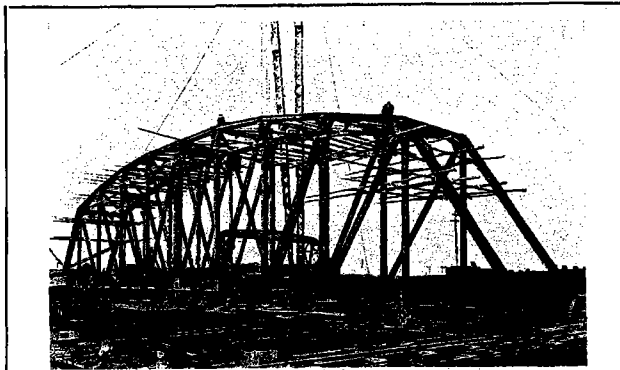
東京市城東区南砂町 9 丁目 2470

《製作した主な橋梁》

1927(昭和 2)年 大平川橋梁 (弥彦線)



[写真-7.20：竹内鐵工所の橋歴版 (大平川橋梁)]



營業機構

鐵骨・橋梁・土木部
化學用諸機械
瓦斯製造諸機械
各種起重機械
水力諸機械

東京市城東區南砂町九丁目二、四七〇番地

竹内鐵工所

竹内

電話本所 (720)
四五八九
四五九九
四四七七
四四八八
四四八七

[写真-7.21：竹内鐵工所の広告¹⁾]

《資料》

1) 内務省土木試験所：『本邦道路橋輯覧 第四輯』，広告，昭和 14 年 4 月

資料 No-44

製作所名：田中橋梁

〈沿革〉

〈製作した主な橋梁〉

1924(大正 13)年 今橋 (大阪市)

〈資料〉

1)土木学会：『歴史的鋼橋集覧』，平成 14 年

資料 No-48

製作所名：月島機械(株)

《沿革》

1905(明治 38)年 4 月 東京鉄工所機械部 創立，東京深川猿江町二丁目
 1905(明治 38)年 8 月 東京月島機械製作所 と改称，東京月島東仲通五丁目
 1912(大正 1)年 「吾妻橋」(群馬県)
 1917(大正 6)年 5 月 31 日 月島機械(株) となる

《製作した主な橋梁》

1924(大正 13)年 戸鹿野橋 (群馬県)
 1925(大正 14)年 荒川大橋 (埼玉県)
 1926(大正 15)年 立ヶ花橋 (長野県)
 1927(昭和 2)年 斉木橋 (山梨県)
 1928(昭和 3)年 佃橋 (東京市)
 1929(昭和 4)年 佐久間橋 (東京市)

月島機械株式會社
 橋梁各種各種 塔鐵橋塔骨鐵

高 15 呎 × 長 80 呎 コーリングダム
 (富士瓦新船株式會社納入)

製作品目
 汽機、汽機、渦巻機、
 甘藷製糖機、真空濾過
 機、濾過機、遠心分離
 機、乳油製糖機、其他製
 糖用化學工業用各種機
 械一式、起重機、昇降
 機、搬送機、動力前減
 速機各種
 油利探査機、各種クラ
 ッシャー、其他土木用
 諸機、各種所用壓力
 機各種
 水門扉、紙機、磁機、
 磁會造橋一切

文 好 崎 宮 役 務 取 常
 目 丁 一 町 西 島 加 新 區 橋 京 市 京 東 分 工 場
 九 三 三 三 番 番 番 電

作 傳 板 黒 長 社
 目 丁 五 通 島 月 區 橋 京 市 京 東 本 社
 〇 五 〇 二 〇 三 〇 三 橋 京 番 電
 二 四 四 四 五 二 六 二

[写真-7.22：月島機械の広告²⁾]

《資料》

- 1) 月島機械(株)：『月島機械株式会社七十年の歩み』，昭和 52 年 6 月 20 日
- 2) 土木学会誌，第 14 卷第 3 号，広告，昭和 3 年 6 月

資料 No-49

製作所名：鉄道工場

《沿革》

(新橋工場)

1871(明治 4)年 新橋器械場 設置

1882(明治 15)年 3 月 新橋工場 と改称

(神戸工場)

1874(明治 7)年 神戸工場 設置

(鷹取工場)

1900(明治 33)年 3 月 1 日 山陽鉄道(株) 鷹取工場 として創立

1906(明治 39)年 12 月 1 日 鉄道作業局鷹取工場 となる

(長野工場)

1890(明治 23)年 創立

(大宮工場)

1894(明治 27)年 創立

(浜松工場)

1912(大正 1)年 創立

《製作した主な橋梁》

(新橋工場)

1875(明治 8)年頃から新橋～横浜間のプレートガーダーを製作

1884(明治 17)年頃から日本鉄道会社(東北本線)のプレートガーダーを製作

(神戸工場)

1878(明治 11)年頃から神戸～大阪間のプレートガーダーを製作

1882(明治 15)年 姉川橋梁 (北陸本線)

1913(大正 2)年 第二加古川橋梁 (加古川線)

(鷹取工場)

山陽鉄道の桁を製作

1912(大正 1)年 小櫃川橋梁他 (房総線)

(長野工場)

1919(大正 8)年 平久里川橋梁 (北条線)

(大宮工場)

1919(大正 8)年 鈍々川橋梁 (北条線)

(浜松工場)

1919(大正 8)年 平久里川橋梁 (北条線)

(宮川鉄工場)

1897(明治 30)年 宮川橋梁 (参宮鉄道)

《資料》

1) 日本国有鉄道：『日本国有鉄道百年史』，昭和 45 年 3 月 31 日

2) 日本国有鉄道鷹取工場：『六十年史』，昭和 37 年 3 月 31 日

資料 No-50

製作所名：(株)東京鐵骨橋梁

《沿革》

- 1914(大正 3)年 8 月 清水組本店深川工作所鉄工部 創立
1922(大正 11)年 10 月 芝浦工場生産開始
1928(昭和 3)年 2 月 合資会社 東京鐵骨橋梁製作所 に改称し橋梁生産を開始,「五反田駅乗換跨線橋」(池上電鉄)を製作
1948(昭和 23)年 10 月 (株)東京鐵骨橋梁製作所 と改組
1963(昭和 38)年 4 月 取手工場 生産開始
1979(昭和 54)年 2 月 防府工場 生産開始
1985(昭和 60)年 8 月 千葉臨海工場 生産開始
1987(昭和 62)年 12 月 取手第 4 工場 生産開始
1997(平成 9)年 2 月 (株)東京鐵骨橋梁 に社名変更

《製作した主な橋梁》

- 1931(昭和 6)年 神通川橋梁 (三菱鉱業)
1931(昭和 6)年 御幸橋 (広島市)
1932(昭和 7)年 大谷川橋梁 (日光登山鉄道)
1932(昭和 7)年 新猿橋 (山梨県)
1932(昭和 7)年 棚沢橋 (東京府)
1933(昭和 8)年 弁天橋 (東京府)
1935(昭和 10)年 青岩橋 (青森県)
1935(昭和 10)年 調布橋 (東京府)
1935(昭和 10)年 川中島橋 (長野県)
1938(昭和 13)年 峨眉橋 (山形県)
1954(昭和 29)年 中里跨線橋 (東京都)
1957(昭和 32)年 峰谷橋 (東京都)
1957(昭和 32)年 井川大橋 (静岡県)
1957(昭和 32)年 銀座橋 (熊本市)
1958(昭和 33)年 夕張岳線第一号橋 (北海道)
1958(昭和 33)年 東橋 (福島県)
1962(昭和 37)年 蒲田跨線橋 (東京都)
1962(昭和 37)年 猪名川橋 (名神自動車道)
1964(昭和 39)年 幌別橋 (北海道)
1967(昭和 42)年 福島第一工区 (阪神高速)
1968(昭和 43)年 新石狩大橋 (北海道)
1969(昭和 44)年 相模川橋梁 (小田急)
1969(昭和 44)年 中野橋 (中央自動車道)
1969(昭和 44)年 太田川橋 (東名自動車道)



[写真-7.23:東京鐵骨橋梁製作所の橋歴版(峰谷橋)]

《資料》

- 1) 東京鐵骨橋梁製作所:『東京鐵骨橋梁製作所七十年史』, 昭和 59 年 12 月 1 日
- 2) 土木学会誌, 第 14 卷第 3 号, 広告, 昭和 3 年 6 月

製作科目

橋桁及其架設

鐵骨及其組立

鐵塔、混凝土

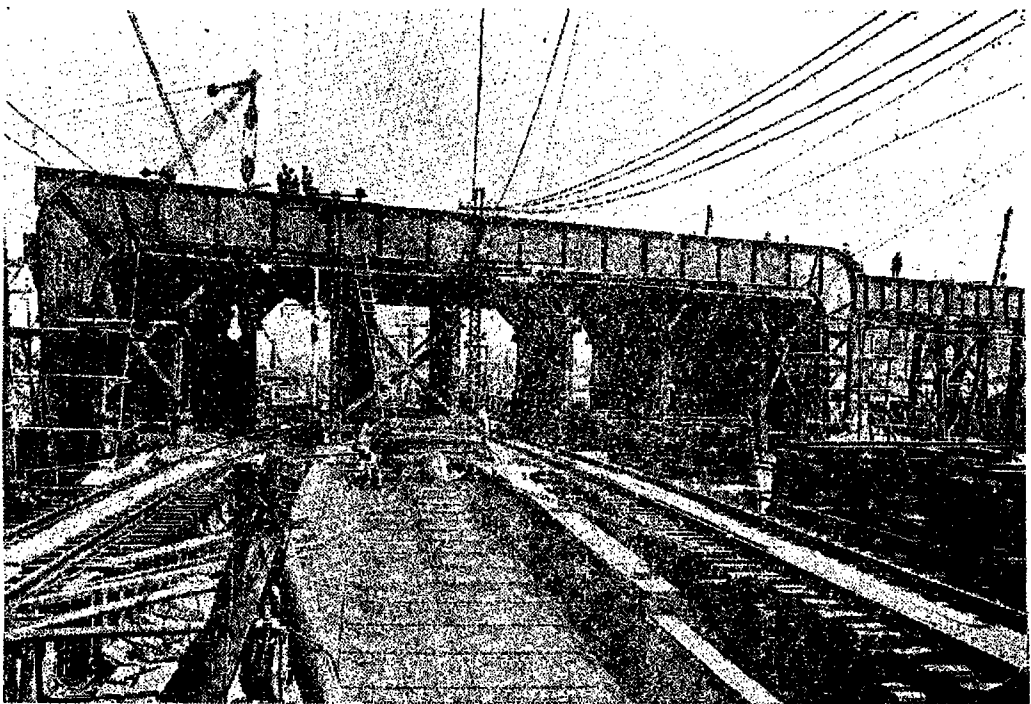
エレベーター

起重機、轉車臺

工事用諸機

械及器具

其他建築用機物一式



(當會社製作の日本最初の省線梁線ラーメン)
(池上電鐵五反田驛架設 本年五月完成)



合資會社 **東京鐵骨橋梁製作所**

本社 東京市麴町區永樂町丸ノ内ビルディング六階
電話 丸ノ内 四六〇九番
工場 東京市芝區月見町二丁目四番地
電話 高輪一四五三・二一八八・五七八三番

代表者 清水揚之助

常務理事 工學博士 竹内季一

技師 長谷井陽之助
工學士

[写真・7.24：東京鐵骨橋梁製作所の広告²⁾]

資料 No-53

製作所名：灯明台局

《沿革》

1866(慶応2)年	幕府外国奉行が燈台業務を管轄
1868(明治1)年1月	外国事務官が管轄
1868(明治1)年4月	横浜裁判所が管轄
1868(明治1)年6月	神奈川県と改称
1868(明治1)年9月	神奈川県と改称し灯明台掛を設置
1869(明治2)年1月	会計官に属し灯明台御用調役設置
1869(明治2)年4月	外国官に属する, 7月外務省となる
1869(明治2)年7月12日	横浜弁天に灯明台役所または灯明台局と称する局を設置
1869(明治2)年9月	大蔵民部省に属する
1869(明治2)年11月	「吉田橋」(横浜市)完成
1870(明治3)年7月	民部省に属する
1925(大正14)年9月	逓信省灯台局となる
1949(昭和24)年6月	海上保安庁灯台部となる

《製作した主な橋梁》

《資料》

- 1) 大内兵衛他編：『明治前期財政経済史資料集成 第17巻 工部省沿革報告』,
昭和6年9月30日, 改造社
- 2) 海上保安庁灯台部：『日本燈台史』, 燈光会, 昭和44年6月30日

資料 No-54

製作所名： 富岡機械製造所(富岡鉄工所)

《沿革》

1886(明治 19)年 5 月 富岡鉄工所 設立

1901(明治 34)年 5 月 「左衛門橋」(東京市)

1906(明治 39)年 當時は富岡機械製造所 (東京市芝区田町 2 丁目 18 番地)

《製作した主な橋梁》

1901(明治 34)年 江戸橋 (東京市)

1901(明治 34)年 京橋 (東京市)



[写真-7.25：富岡機械製造所の広告²⁾]

《資料》

1) 東京都港区：『港区史(下巻)』

2) 工談会：『工談雑誌』，第 184 号，明治 39 年 1 月 26 日

資料 No-55

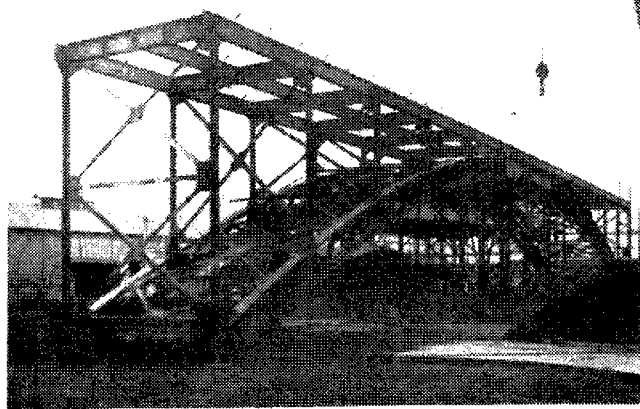
製作所名： 東洋火熱工業(株)

《沿革》

1941(昭和 16)年 5 月 16 日 東洋火熱工業(株) , 本社 東京神田区
1944(昭和 19)年 横浜工場操業
1950(昭和 25)年 「浅原橋」(山梨県)
1969(昭和 44)年 11 月 トーヨーカネツ(株)と改名
1973(昭和 48)年 砂町工場 (東京江東区東砂 8-19-20)
1949(昭和 24)~1950(昭和 25)年に橋梁製作

《製作した主な橋梁》

1951(昭和 26)年 今朝平橋 (愛知県)
1951(昭和 26)年 黄瀬川橋 (静岡県)
1952(昭和 27)年 石神橋 (滋賀県)



石神橋(滋賀県)

東洋火熱工業株式会社

[写真-7.26: 東洋火熱工業(株)の広告 2]

《資料》

- 1) トーヨーカネツ(株): 『トーヨーカネツ 50 年史』, 平成 3 年 5 月 16 日
- 2) 土木学会: 『土木工事写真集』, 広告, 昭和 29 年 10 月 20 日

資料 No-62

製作所名：新潟鉄工所

《沿革》

1895(明治 28)年 6 月 16 日 日本石油(株) 新潟鉄工所 業務開始
1898(明治 31)年 同年開通の北越鉄道の橋梁を製作
1910(明治 43)年 6 月 17 日 (株)新潟鉄工所 となる

《製作した主な橋梁》

《資料》

1) (株)新潟鉄工所：『新潟鉄工所百年史』, 1996 年 3 月 31 日

資料 No-64

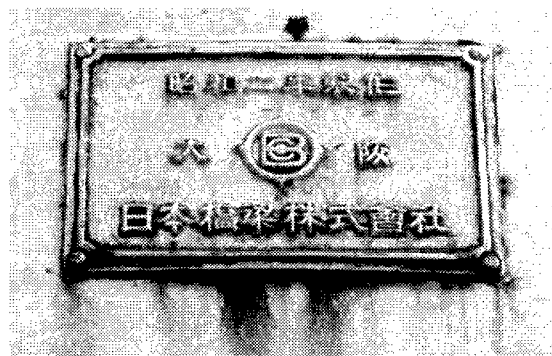
製作所名：(株)日本橋梁

《沿革》

- 1919(大正 8)年 関場茂樹が小林鉄工所(大阪府西成郡豊崎町)に経営参加, 日本橋梁建築合資会社に改組
- 1919(大正 8)年 7月 岩井商店(現・日商岩井株式会社)の創業者岩井勝次が資本参加, 日本橋梁(株)を設立し橋梁・鉄骨の生産を開始
- 1924(大正 13)年 4月 鉄道省の指定工場となる
- 1937(昭和 12)年 西工場新設
- 1941(昭和 16)年 浜工場開設 (旧淀川工場)
- 1943(昭和 18)年 堺工場開設
- 1979(昭和 54)年 12月 大阪市港区に本社および橋梁工場移転
- 1980(昭和 55)年 11月 大阪市西淀川区に鉄塔工場移転 (中島工場)
- 1987(昭和 62)年 11月 兵庫県加古郡播磨町に播磨工場開設
- 1993(平成 5)年 10月 千葉工場を開設
- 1996(平成 8)年 10月 兵庫県西脇市に西脇工場開設

《製作した主な橋梁》

- 1919(大正 8)年 松室大橋 (山口県)
- 1919(大正 8)年 犀川大橋 (石川県)
- 1921(大正 10)年 岩井橋 (名古屋市)
- 1922(大正 11)年 富士川橋 (静岡県)
- 1924(大正 13)年 六郷橋 (神奈川県)
- 1924(大正 13)年 長六橋 (熊本県)
- 1924(大正 13)年 豊平橋 (北海道)
- 1925(大正 14)年 三好橋 (徳島県)
- 1926(昭和 1)年 霞橋 (岡山県)
- 1927(昭和 2)年 和泉橋 (復興局)
- 1927(昭和 2)年 野沢橋 (長野県)
- 1928(昭和 3)年 鶴歩橋 (東京市)
- 1928(昭和 3)年 富岡橋 (復興局)
- 1929(昭和 4)年 荒川橋 (埼玉県)
- 1929(昭和 4)年 銚流橋 (大阪市)
- 1930(昭和 5)年 十三大橋 (大阪市)
- 1934(昭和 9)年 目黒橋 (富山県)
- 1935(昭和 10)年 熊野大橋 (和歌山県)
- 1936(昭和 11)年 観月橋 (京都府)
- 1950(昭和 25)年 泉大橋 (京都府)
- 1952(昭和 27)年 神崎橋 (大阪府)
- 1953(昭和 28)年 鳥飼大橋 (大阪府)

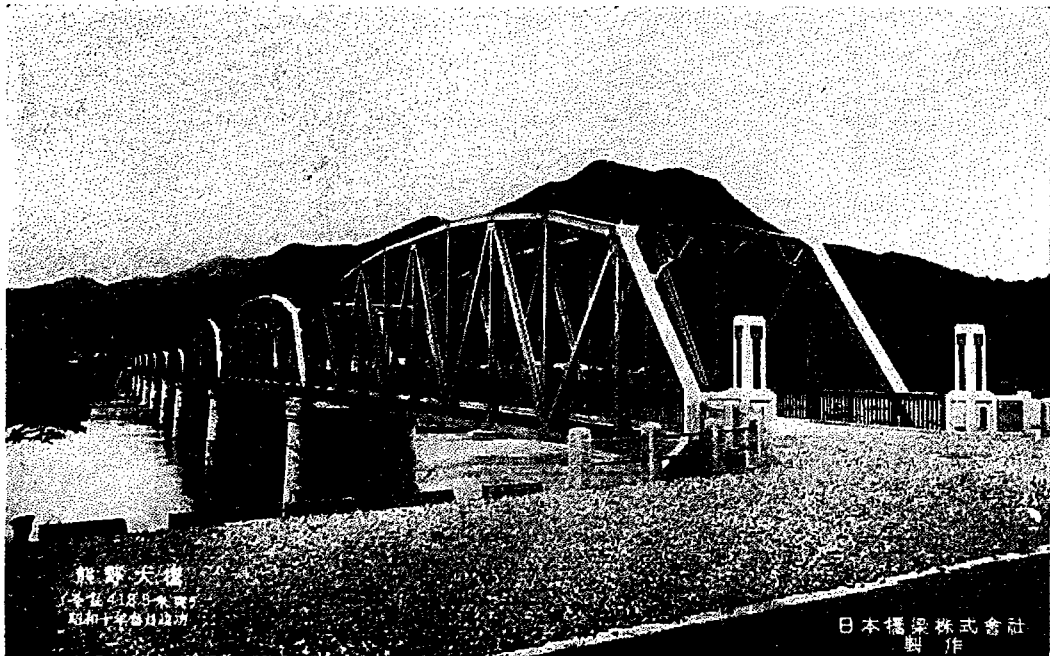


[写真-7.27：日本橋梁の橋歴版 (野沢橋)]

《資料》

- 1) ダイヤモンド社：ポケット社史『日本橋梁』
- 2) 日本橋梁(株)：『かけはし』(創立 70 周年記念号)
- 3) 土木学会誌, 第 14 巻第 3 号, 広告, 昭和 3 年 6 月

熊野大橋



日 本 橋 梁 株 式 會 社

本 社 大 阪 市 東 淀 川 區 長 柄 濱 通 一 ノ 五

電 堀 川 9 3 1 ~ 5

出 張 所 東 京 市 京 橋 區 寶 町 三 丁 目 二 番 地

電 京 橋 7 7 4 3

營 業 種 目

各 種 鐵 橋、鋼 鈹 管、各 種 鐵 骨、
送 電 線 路 用 鐵 塔、鐵 柱、鐵 構 類、
其 他 一 般 鋼 構 造 物 ノ 製 作 並 設 計
高 壓 瓦 斯 容 器 製 作 並 鐵 材 ノ 亞 鉛 鍍 金 一 式

[写真-7.28：日本橋梁の広告³⁾]

資料 No-65

製作所名： 日本鋼管(株)

《沿革》

1912(明治 45)年 6 月 8 日 日本鋼管(株) 創立
1940(昭和 15)年 10 月 1 日 鶴見製鉄造船(株)を合併
1953(昭和 28)年 「相模大橋」(神奈川県)
1956(昭和 31)年 鶴見造船所生麦工場を橋梁生産用に整備
1961(昭和 36)年 清水造船所鉄構工場を新設
1970(昭和 45)年 津造船所鉄構工場が稼動

《製作した主な橋梁》

1948(昭和 23)年 鶴見大橋 (横浜市)
1950(昭和 25)年 川根大橋 (静岡県)
1951(昭和 26)年 昭明橋 (栃木県)
1952(昭和 27)年 引田橋 (栃木県)
1953(昭和 28)年 西村橋 (兵庫県)
1953(昭和 28)年 多摩水道橋 (東京都)
1955(昭和 30)年 相模大橋 (神奈川県)
1959(昭和 34)年 新数寄屋橋 (東京高速)
1963(昭和 38)年 千住水管橋 (東京都)
1967(昭和 42)年 奥多摩大橋 (東京都)
1969(昭和 44)年 長野大橋 (長野県)
1969(昭和 44)年 小坂川橋 (東名自動車道)
1969(昭和 44)年 小形山橋 (中央自動車道)



[写真-7.29：日本鋼管の広告③]

《資料》

- 1) 日本鋼管(株)：『日本鋼管株式会社 70 年史』，昭和 57 年
- 2) 日本鋼管(株)：『GAIA ODYSSEY』，平成 4 年 12 月 1 日
- 3) 建設省道路局監修：『道路橋大鑑』，広告，土木界通信社，昭和 36 年 10 月 30 日

資料 No-65-1

製作所名：(株)浅野造船所

《沿革》

- 1916(大正 5)年 4 月 15 日 浅野総一郎により(株)横浜造船所として創立
1916(大正 5)年 12 月 1 日 (株)浅野造船所に改称
1920(大正 9)年 3 月 (株)浅野製鉄所を合併し、鋼板の製造から造船・船舶の修繕まで一貫して行う一方、陸上工事にも進出
1923(大正 12)年 橋梁生産を開始、「築地橋」(復興局)を製作
1936(昭和 11)年 11 月 26 日 鶴見製鉄造船(株)と改称
1940(昭和 15)年 10 月 1 日 日本鋼管(株)と合併

《製作した主な橋梁》

- 1923(大正 12)年 東元橋 (東京市)
1923(大正 12)年 松永橋 (東京市)
1925(大正 14)年 西河岸橋 (東京市)
1925(大正 14)年 鉄道用プレートガーダー 20 連 (鶴見臨港鉄道)
1926(大正 15)年 山吹橋 (横浜市)
1926(大正 15)年 鉄道用プレートガーダー 63 連 (南武鉄道(株))
1927(昭和 2)年 車橋 (横浜市)
1928(昭和 3)年 厩橋 (東京市)
1928(昭和 3)年 鎧橋 (東京市)
1928(昭和 3)年 港橋 (横浜市)
1928(昭和 3)年 鉄道用プレートガーダー 17 連 (青梅鉄道)
1929(昭和 4)年 行幸橋 (内務省)
1929(昭和 4)年 鷲石橋 (群馬県)
1930(昭和 5)年 鉄道用プレートガーダー 147 連 (富山電気鉄道)
1930(昭和 5)年 桜木橋 (岩手県)
1931(昭和 6)年 仙人橋 (岩手県)
1931(昭和 6)年 晩翠橋 (栃木県)
1932(昭和 7)年 南氷川橋 (東京府)
1932(昭和 7)年 吉野橋 (神奈川県)
1933(昭和 8)年 本合海橋 (山形県)
1934(昭和 9)年 両羽橋 (山形県)
1934(昭和 9)年 大井橋 (横浜市)
1934(昭和 9)年 長井橋 (山形県)
1934(昭和 9)年 昭和橋 (岩手県)
1936(昭和 11)年 大師橋 (神奈川県)
1937(昭和 12)年 御成橋 (静岡県)
1938(昭和 13)年 北上大橋 (岩手県)

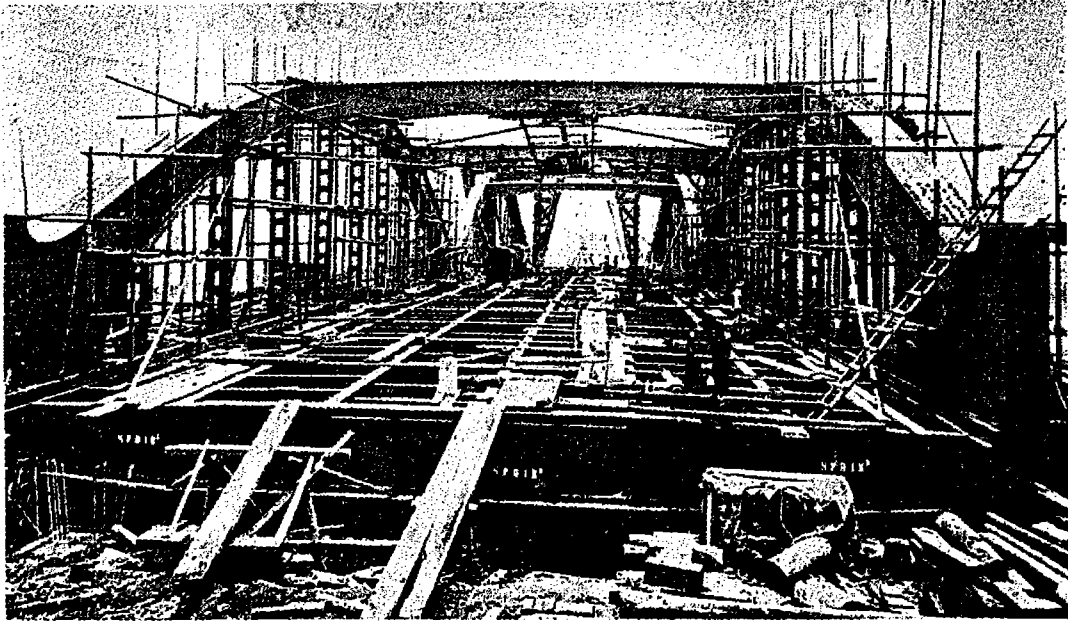


[写真-7.30：浅野造船所の橋歴版 (西河岸橋)]

《資料》

- 1) 日本鋼管(株)：『日本鋼管株式会社 70 年史』，昭和 57 年
- 2) 原正幹：『我社の生立』，昭和 10 年 12 月 17 日，浅野造船所
- 3) 土木学会誌，第 15 卷第 7 号，広告，昭和 4 年 7 月

東京市御註文ノ厩橋



兩側徑間 150 呎 中央徑間 180 呎 鐵部總重量 2038 噸

營業種目

- 一、船舶、汽機、汽罐ノ建造並修理
- 一、船渠及曳船業
- 一、車輛、車臺
- 一、橋梁、鐵塔、油槽、銲接鋼管
- 一、鐵骨建築其他諸般ノ鐵工業
- 一、銑鐵、鋼塊、鋼板

○乾船渠 壹號 長六百六十七呎
貳號 長五百〇四呎



株式會社

淺野造船所

本社

橫濱市鶴見區末廣町
電話(橫濱本局)五〇八六・四五三・四五三二
見一・二四・一・二二五

東京出張所

東京市麴町區丸ノ内一丁目二番地
淺野事務所 電話九ノ内 一・二六・一・九

船渠所在地

橫濱市橋本町二丁目一番地
電話(橫濱本局)五三三六・五三三七・五三三八

[写真-7.31：淺野造船所の廣告³⁾]

資料 No-66,66-1

製作所名：日本車両製造(株)

《沿革》

(天野工場)

1896(明治 29)年 6 月	匿名組合 天野工場 設立 (東京府南葛飾郡隅田村)
1902(明治 35)年	合資会社となる
1904(明治 37)年	天野氏の個人会社となる
1914(大正 3)年	「柳瀬川橋梁」(東武東上線)を製作
1919(大正 8)年	日本車両製造(株)と合併

(日本車両製造)

1896(明治 29)年 9 月 18 日	日本車両製造(株)設立 (名古屋市栄町 2147 番地)
1897(明治 30)年 12 月 1 日	熱田工場完成
1909(明治 42)年	「高蔵寺橋」(愛知県)を製作
1926(昭和 1)年～	本格的に橋梁生産を開始,「庄内橋」(名古屋市)
1962(昭和 37)年	大江工場稼動

《製作した主な橋梁》

(天野工場)

1914(大正 3)年頃 赤間川橋梁 (東武東上線)

(日本車両製造)

1927(昭和 2)年	青柳橋 (岐阜県)
1932(昭和 7)年	東西築地連絡橋 (愛知県)
1963(昭和 38)年	三ツ久保沢橋 (長野県)
1964(昭和 39)年	新大沼橋 (奈良県)
1966(昭和 41)年	原野谷川橋梁 (国鉄)
1967(昭和 42)年	飛田第一橋 (中央自動車道)
1969(昭和 44)年	軽井沢大橋 (長野県)
1969(昭和 44)年	江尾橋 (道路公団)

日本車輛製造株式会社

蒸気機関車	電車	客車	貨車	電車用トランプ
轉轍機	鐵橋	車輪部品	鑄鋼品	機械器具

本店 名古屋市南区熱田東町
電話代表南(二)七四(四)
電話南(一)七二(七)
東京支店 東京都下南葛飾郡隅田町
電話南(一)七二(七)
電話南(一)七二(七)
九ノ内出張所 東京都九ノ内ヒルナンゲ三六四區
電話九ノ内 七五七

[写真-7.32：日本車輛製造の広告²⁾]

《資料》

- 1)日本車両製造(株)：『慕進』，昭和 52 年 6 月
- 2)土木学会誌，第 14 卷第 3 号，広告，昭和 3 年 6 月

資料 No-67

製作所名：日本鉄工(株)

《沿革》

- 1878(明治 11)年 田中鉄工所創立
- 1899(明治 32)年 当時は合資会社 田中鉄工所
本社 東京市本所区徳右衛門町 34 番地
芝分工場 芝区三田四国町 2 番地
- 1900(明治 33)年 日本鉄工(株)に変更
- 1901(明治 34)年 「利根橋」(群馬県)

《製作した主な橋梁》

告 廣

○ 明治十一年工場創設

○ 資本金 參拾五萬圓

○ 陸船用諸機械、鐵橋、鐵道建築

○ 各種製造機械、石油鑿井機械、鐵索機械、汽罐、汽機

○ 其他諸般の設計据付等、

○ 取締役社長 大川平三郎

○ 專務取締役 谷崎安太郎

○ 取締役 本間英一郎

○ 同 田中榮八郎

東京市本所區徳右衛門町卅三、卅四番地

元合資田中鐵工所事日本鐵工株式會社

電話番號 浪花四百六十一番

○ 本社は合資會社田中鐵工所の規模を擴張し株式組織に変更せるものなり

○ 本社は此際一層誠實親切を旨とし特に出來期日に注意す

○ 本社は納品の良否を驗せしむる爲め時々技師を派遣す

○ 分工場芝區三田四國町貳番地

(電話新橋九百五十番)

取締役 宮田藤左衛門

同 大橋佐吉

監査役 澁谷嘉助

同 鳥飼銀藏

[写真-7.33：日本鉄工の広告²⁾]

《資料》

- 1) 前橋市：『前橋市史 第4巻』，昭和 53 年 12 月 1 日
- 2) 工業雜誌社：『工業雜誌 2 卷 2 号』，明治 33 年 9 月 21 日

資料 No-68

製作所名：日本鉄塔工業（株）

《沿革》

- 1938(昭和 13)年 11 月 26 日 (株)服部製作所若松工場が独立し (株)若松服部製作所 となる。主として鉄塔を製作
- 1952(昭和 27)年 1 月 東京工場 開設
- 1955(昭和 30)年 1 月 27 日 砂町工場 開設
- 1961(昭和 36)年 4 月 1 日 日本鉄塔工業(株) となる
- 1964(昭和 39)年 「第一日字橋」(佐世保市)
- 1968(昭和 43)年 11 月 豊橋工場 開設

《製作した主な橋梁》

- 1964(昭和 39)年 温井川橋 (群馬県)
- 1965(昭和 40)年 高見橋 (鹿児島県)
- 1967(昭和 42)年 春日部大橋 (埼玉県)
- 1969(昭和 44)年 藤木橋 (熊本県)
- 1969(昭和 44)年 上野原橋 (中央自動車道)
- 1969(昭和 44)年 惣領橋 (東名自動車道)

《資料》

- 1)日本鉄塔工業(株)：『日本鉄塔工業 75 年史』, 平成 9 年 10 月

資料 No-68-1

製作所名：(株)服部製作所

《沿革》

1916(大正 5)年 12 月 (株)服部製作所 創業 (東京市京橋区月島通り三丁目)
1920(大正 9)年 池袋工場 開設 (府下北豊島郡池袋町雲雀谷 2193)
1924(大正 13)年 若松工場 開設 (福岡県若松市)

《製作した主な橋梁》

1929(昭和 4)年 松永橋 (東京市)
1929(昭和 4)年 千鳥橋 (東京市)
1929(昭和 4)年 女橋 (東京市)
1929(昭和 4)年 新開橋 (東京市)
1929(昭和 4)年 猿子橋 (東京市)

《資料》

1)日本鉄塔工業(株)：『日本鉄塔工業 75 年史』，平成 9 年 10 月

資料 No-69

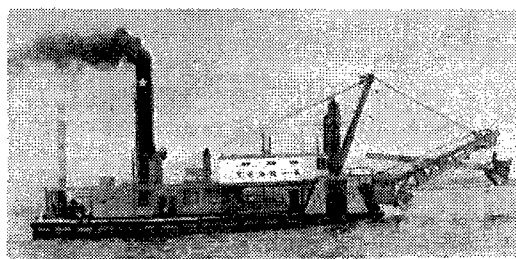
製作所名： 函館どっく(株)

《沿革》

1880(明治 13)年 4 月 器械製造所 開設
1891(明治 24)年 1 月 函館造船所 と改める
1896(明治 29)年 11 月 7 日 函館船渠(株) 設立
1903(明治 36)年 北海道鉄道用橋桁(47 連)を製作
(株)函館ドック と改称
(株)函館どっく と改称

《製作した主な橋梁》

1932(昭和 7)年 朝里橋 (北海道)
1933(昭和 8)年 張碓橋 (北海道)
1933(昭和 8)年 空知大橋 (北海道)
1959(昭和 34)年 滝ノ湯橋 (北海道)
1961(昭和 36)年 池田大橋 (北海道)
1963(昭和 38)年 紋穂内橋 (北海道)
1964(昭和 39)年 析石橋 (北海道)
1965(昭和 40)年 寿橋 (北海道)
1969(昭和 44)年 与瀬第一橋 (中央自動車道)
1969(昭和 44)年 春山川橋 (東名自動車道)



函館ドック株式会社

東京都中央区日本橋通2の3

HAKODATE DOCK CO., LTD.

No. 3, 2-Nihonbashi-tori Chuo-ku, Tokyo

[写真-7.34：函館ドックの広告³⁾]

《資料》

- 1) 函館市：『函館市史 通史編第二巻』
- 2) 函館船渠(株)：『函館船渠株式会社四十年史』，昭和 12 年 7 月 5 日
- 3) 土木学会：『土木工事写真集』，広告，昭和 29 年 10 月 20 日

資料 No.70

製作所名：(株)ハルテック

《沿革》

1921(大正 10)年 4 月 春本利作が大阪市此花区海老江町で建築金物請負業を創業
1931(昭和 6)年 3 月 大阪市大正区南恩加島に工場移転
1941(昭和 16)年 6 月 (株)春本組を設立
1951(昭和 26)年 12 月 (株)春本鐵工所に社名変更
1968(昭和 43)年 4 月 枚方工場開設
1985(昭和 60)年 6 月 和歌山工場開設に伴い枚方工場閉鎖
1991(平成 3)年 7 月 本社を東京に移転し大阪本店とする
1993(平成 5)年 10 月 千葉工場開設
1996(平成 8)年 8 月 (株)春本鐵工に社名変更
2001(平成 13)年 8 月 (株)ハルテックに社名変更

《製作した主な橋梁》

1954(昭和 29)年 阿賀野川橋梁 (白新線)
1957(昭和 32)年 犀川橋梁 (信越本線)
1959(昭和 34)年 大仁橋 (静岡県)
1960(昭和 35)年 長良川橋梁 (東海道本線)
1962(昭和 37)年 太田川橋梁 (可部線)
1963(昭和 38)年 手取川橋梁 (北陸本線)
1966(昭和 41)年 葭屋橋 (大阪市)
1967 昭和 42)年 日野跨線橋 (中央自動車道)
1968(昭和 43)年 神領橋 (東名自動車道)
1969(昭和 44)年 忍沢橋 (東名自動車道)

《資料》

1)(株)ハルテックホームページ

資料 No-72

製作所名：(株)日立製作所

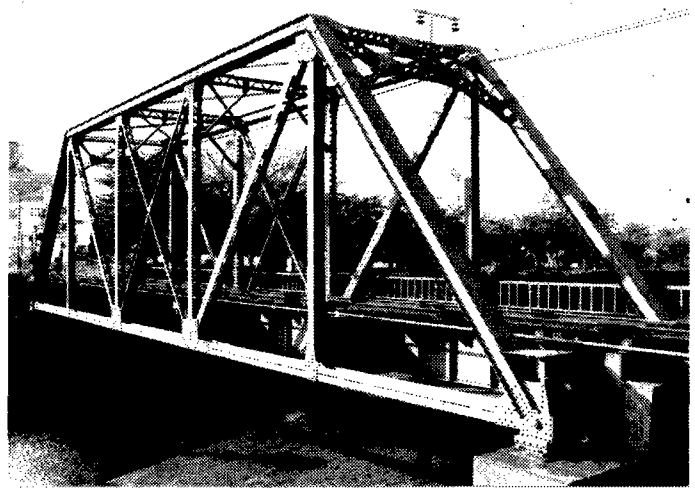
《沿革》

1920(大正 9)年 2 月 (株)日立製作所 創立

1921(大正 10)年 2 月 笠戸工場 開設 (日本汽船(株)笠戸製作所を買収して)

《製作した主な橋梁》

1923 (大正 12) 年 新川橋梁 (宇部線)



[写真-7.35：新川橋梁 (宇部線)]



[写真-7.36：日立製作所の橋歴版 (新川橋梁)]

《資料》

1) (株)日立製作所：『日立製作所史』，昭和 35 年 10 月 5 日

資料 No.73

製作所名：日立造船(株)

《沿革》

- 1881(明治 14)年 4 月 英国人 E.H..ハンターが大坂鉄工所(個人経営)を大阪安治川岸に設立
- 1900(明治 33)年 4 月 桜島工場操業開始, 第 1 号橋として七尾鉄道向け鉄道橋)を製作
- 1911(明治 44)年 因島工場操業開始
- 1914(大正 3)年 3 月 18 日 (株)大坂鉄工所 に改組
- 1922(大正 11)年 築港工場操業開始
- 1927(昭和 2)年 (株)大坂鉄工所 として新発足
- 1943(昭和 18)年 3 月 11 日 社名を 日立造船(株) に変更
- 1944(昭和 18)年 9 月 向島船渠(株) 合併し向島造船所とする
- 1944(昭和 19)年 7 月 神奈川工場操業開始
- 1948(昭和 23)年 向島造船所を向島工場に改称
- 1965(昭和 40)年 堺工場操業開始
- 1971(昭和 46)年 4 月 1 日 舞鶴重工業(株) を合併し舞鶴工場とする
- 1973(昭和 48)年 3 月 向島東工場を鉄構専門工場とする
- 1973(昭和 48)年 有明工場操業開始
- 1979(昭和 54)年 有明陸機工場操業開始

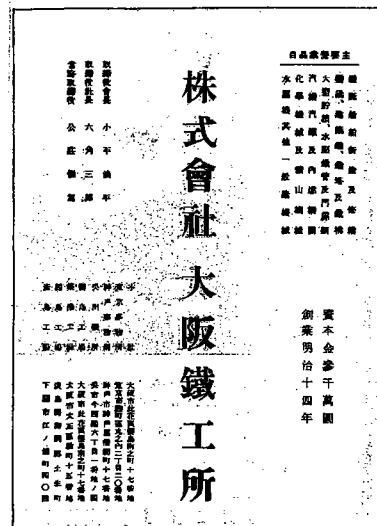
《製作した主な橋梁》

(大阪鉄工所)

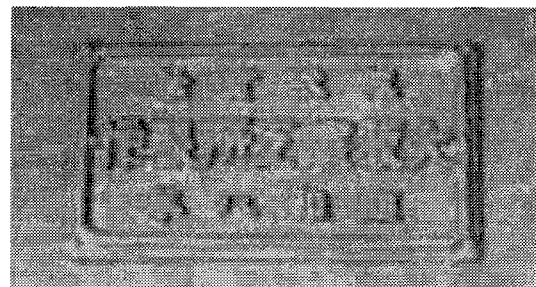
- 1901(明治 34)年 大分県の道路橋【50 トン】
- 1924(大正 13)年 宇奈月橋梁 (日本電力)
- 1926(大正 15)年 太田橋 (岐阜県)
- 1926(大正 15)年 淀川大橋 (大阪府)
- 1927(昭和 2)年 堂島大橋 (大阪市)
- 1927(昭和 2)年 渡辺橋 (大阪市)
- 1928(昭和 3)年 吉野川橋 (徳島市)
- 1928(昭和 3)年 幣舞橋 (北海道)
- 1928(昭和 3)年 小倉橋 (岐阜県)
- 1930(昭和 5)年 中川橋 (名古屋市)
- 1931(昭和 6)年 濁澄橋 (石川県)
- 1933(昭和 8)年 明石大橋 (兵庫県)
- 1936(昭和 11)年 木曾川橋梁 (東海道本線)
- 1936(昭和 11)年 大船橋 (大阪市)
- 1937(昭和 12)年 長生橋 (新潟県)

(日立造船)

- 1948(昭和 23)年 小丸大橋 (宮崎県)
- 1958(昭和 33)年 玉名橋 (熊本県)
- 1958(昭和 33)年 岩知内水路橋 (北海道電力)
- 1962(昭和 37)年 若戸大橋【主塔】 (福岡県)
- 1963(昭和 38)年 度会橋 (三重県)
- 1964(昭和 39)年 相模川橋梁 (東海道新幹線)



[写真-7.37：大阪鐵工所の広告]



[写真-7.38：大阪鐵工所の橋歴版 (明石大橋)]

《資料》

- 1) 日立造船(株)：『日立造船百年史』, 昭和 60 年 3 月 31 日
- 2) 日立造船(株)ホームページ

資料 No-73-1

製作所名： 舞鶴重工業(株)

《沿革》

1944(昭和 19)年 3 月 31 日 飯野産業
1946(昭和 21)年 4 月 飯野産業(株) 舞鶴造船所
1950(昭和 25)年 7 月 飯野産業(株) 舞鶴製作所
1950(昭和 25)年 7 月 飯野産業(株) 舞鶴造船所
1953(昭和 28)年 10 月 飯野重工業(株) 舞鶴造船所
1961(昭和 36)年 4 月 1 日 舞鶴重工業(株) となる
1971(昭和 46)年 4 月 1 日 日立造船(株)と合併

《製作した主な橋梁》

(飯野重工業)

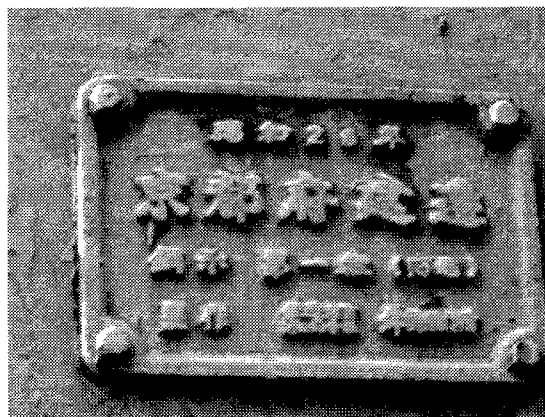
1951(昭和 26)年 花ノ木橋 (京都府)

1953(昭和 28)年 大川橋 (京都府)

(舞鶴重工業)

1964(昭和 39)年 湯瀧橋 (長野県)

1965(昭和 40)年 丹波大橋 (京都府)



[写真-7.39：飯野産業舞鶴造船所の橋歴版 (大川橋)]

《資料》

1) 日立造船(株)：『日立造船百年史』，昭和 60 年 3 月 31 日

資料 No-75

製作所名：富士車輛(株)

《沿革》

- 1944(昭和 19)年 12 月 富士造機(株)を設立，大阪府南河内郡狭山町（現大阪狭山市）
1945(昭和 20)年 9 月 富士車輛(株)と改称
1954(昭和 29)年 8 月 橋梁，鉄骨，鉄塔の製造開始
1954(昭和 29)年 「滝元川橋」（和歌山県）
1963(昭和 38)年 7 月 滋賀工場を建設し，車両・橋梁工場として操業開始
1986(昭和 61)年 2 月 滋賀工場に生産を集約し，本社を大阪市内に移転

《製作した主な橋梁》

- 1958(昭和 33)年 吉野川橋 （高知県）
1959(昭和 34)年 桜江大橋 （島根県）
1963(昭和 38)年 新大山橋 （鳥取県）
1967(昭和 42)年 高津大橋 （島根県）
1969(昭和 44)年 新倉第一橋 （中央自動車道）
1969(昭和 44)年 勝間田避溢橋 （東名自動車道）
1982(昭和 57)年 興産大橋 （山口県）

《資料》

- 1) 富士車輛(株)ホームページ
- 2) 宇部興産(株)：『宇部興産創業百年史』，平成 10 年 6 月

資料 No-79

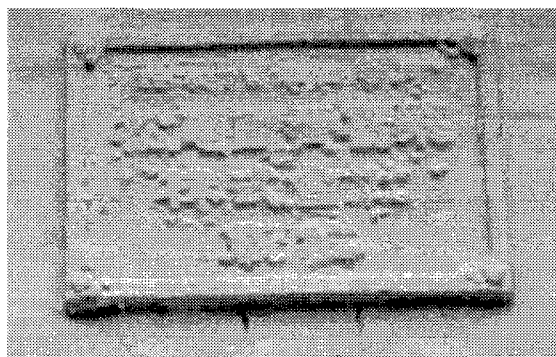
製作所名：松尾橋梁(株)

《沿革》

1813年頃	伝法屋(建築金物商)を創業
1870年	松尾和助商店と改称
1907(明治40)年頃	汐見橋工場 後・境川に移転
1912(大正元)年	橋梁生産開始「富雄川橋梁」(近鉄奈良線)
1922(大正11)年	福町工場建設
1925(大正14)年	松尾鐵骨橋梁(株)設立
1926(大正15)年	東京工場(月島)を建設
1934(昭和9)年	東京工場(砂町)を建設
1936(昭和11)年	月島工場を閉鎖
1937(昭和12)年7月	松尾橋梁(株)に名称変更
1942(昭和17)年	堺工場を建設
1944(昭和19)年5月	松尾重工(株)に名称変更
1945(昭和20)年9月	松尾橋梁(株)に名称復帰

《製作した主な橋梁》

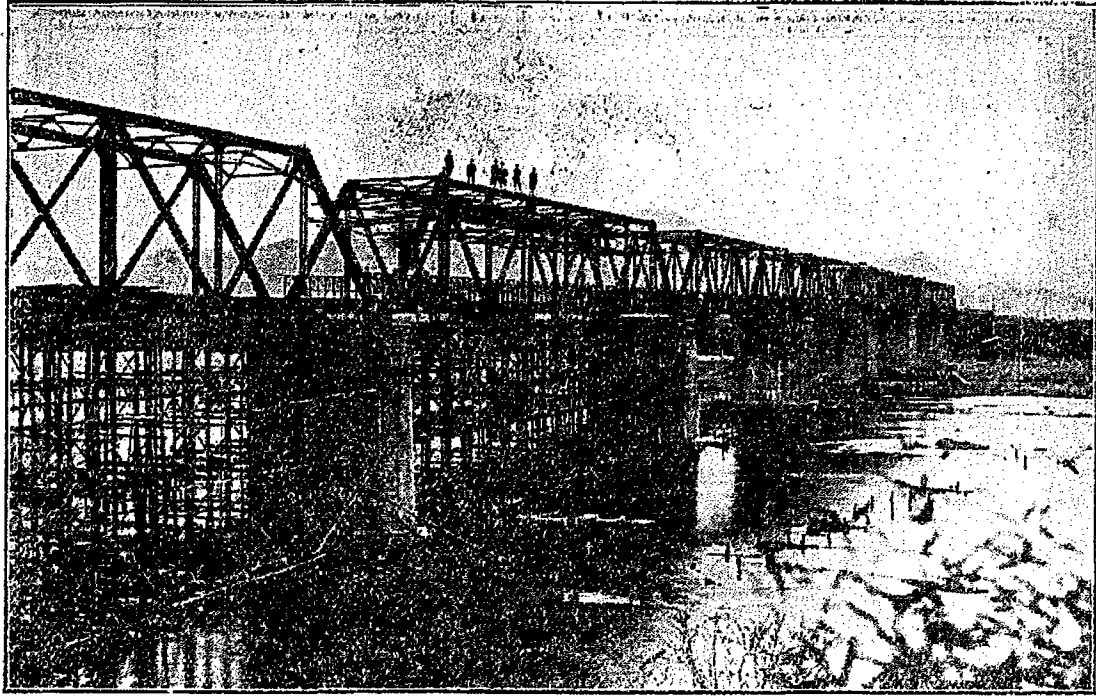
1913(大正2)年	油阪陸橋 (近鉄奈良線)
1921(大正10)年	大和川橋梁 (近鉄生駒線)
1922(大正11)年	立売橋 (大阪市)
1922(大正11)年	京橋 [拡幅] (東京市)
1924(大正14)年	勝浦川橋 (徳島県)
1926(昭和1)年	大和川橋梁 (近鉄大阪線)
1927(昭和2)年	木津川橋梁 (近鉄京都線)
1928(昭和3)年	日野橋 (鳥取県)
1928(昭和3)年	仁淀川橋 (高知県)
1929(昭和4)年	枚方大橋 (大阪府)
1929(昭和4)年	円山大橋 (兵庫県)
1931(昭和6)年	高田橋 (福島県)
1933(昭和8)年	山口貯水池橋 (東京府)
1932(昭和7)年	長堀川新橋 (大阪市)
1936(昭和11)年	正蓮寺川新橋 (大阪市)
1936(昭和11)年	桜橋 (広島県)
1938(昭和13)年	伯楽橋 (大阪市)
1939(昭和14)年	音羽跨線橋 (東京府)
1944(昭和19)年	巴川可動橋 (清水港線)
1950(昭和25)年	重信川橋 (愛媛県)
1952(昭和27)年	荒川橋梁 (東北本線)
1954(昭和29)年	高倉跨線橋 (京都府)
1955(昭和30)年	海尻橋 (栃木県)



[写真-7.40: 松尾鐵骨橋梁の橋歴版 (山口貯水池橋)]

《資料》

- 1) 松尾橋梁(株):『松尾橋梁70年のあゆみ』,平成8年4月20日
- 2) 土木学会誌,第15巻第5号,広告,昭和4年5月



高知縣仁淀川橋梁（昭和四年五月竣工）



松尾鐵骨橋梁株式會社

營業科目

其他	鐵塔	鐵骨
附帶	鐵管	橋梁
專業		

本社 大阪市港區福町二丁目

電話 櫻川 一五五三番
二四二三番

東京支店 東京市京橋區月島仲通六丁目五番地

電話 京橋 四三八七番
四九七二番

[写真-7.41：松尾鐵骨橋梁の廣告²⁾]

資料 No-81

製作所名：三田農具製作所

《沿革》

1879(明治 12)年 11 月	大蔵省勸農局 三田農具製作所 設立
1881(明治 14)年 4 月	農商務省農務局に属す
1882(明治 15)年以降	府県・民間の注文に応じる
1886(明治 19)年頃	「秩父橋」(埼玉県) 他の木鉄混合トラス橋の鉄部を製作
1888(明治 21)年 1 月 10 日	岩崎由次郎,松井平次郎,根岸吉松連名で落札
1888(明治 21)年 5 月	(株)三田農具製作所 設立
1888(明治 21)年 3 月 7 日	「鎧橋」(東京市) を製作
1889(明治 22)年 10 月 1 日	三田機械製作所 と改称
1892(明治 25)年 5 月	三田機械製作(株) となる
1901(明治 34)年 1 月	東京機械製造(株) と改称
1903(明治 35)年	東京機械製造(株) 三田製作所となる

《製作した主な橋梁》

1892(明治 25)年 5 月 和泉橋 (東京市)

《資料》

- 1) 編纂委員会：『農林水産省百年史』，昭和 54 年 3 月 25 日
- 2) 大塚栄吉：「東京三田機械製作所沿革及製品概略」，工談雑誌，明治 25 年 10 月 12 日

資料 No-82

製作所名：三井造船(株)

《沿革》

1917(大正 6)年 11 月 14 日 三井物産(株)の造船部として、岡山県児島郡日比町(現 玉野市)で創業開始

1937(昭和 12)年 三井物産から分離独立し、(株)玉造船所を設立(現 玉野事業所)

1942(昭和 17)年 社名を三井造船(株)に改称

1952(昭和 27)年 東京築地に本社機構を移設

1961(昭和 36)年 橋梁生産を開始、「志川橋」(四国地建)を製作

1962(昭和 37)年 千葉工場(現 千葉事業所)操業開始

1967(昭和 42)年 (株)藤永田造船所 [写真-7.42] と合併(後に大阪事業所と改称)

1973(昭和 48)年 修繕船専門工場の由良工場(和歌山県)操業開始

1981(昭和 56)年 大分事業所操業開始

1996(平成 8)年 玉野事業所での橋梁生産中止

1999(平成 11)年 大阪事業所を閉鎖

《製作した主な橋梁》

1963(昭和 38)年 安野々橋 (四国地建)

1966(昭和 41)年 伊達橋 (中国地建)

1968(昭和 43)年 帯川橋・佐奈川橋 (道路公団)

1972(昭和 47)年 境水道大橋 (道路公団)

1976(昭和 51)年 泉大津大橋 (大阪府)

1979(昭和 54)年 信喜大橋 (島根県)

營業科目 其他 諸機械製造 一般鐵工業 客車 電車 貨車 橋桁及建築鐵骨 艦船建造並修理 陸船用汽機汽罐	海軍省 鐵道省 指定工場
---	-----------------



鐵道省納入 牛鋼製ボギー客車

株式會社 藤永田造船所

本社 大阪市住吉區柴谷町四十四番地
 電話 櫻川 45, 46, 807, 808, 4468番
 4745, 4739, 4799, 特設 870番
 同 住吉 253番

東京出張所 東京市麴町區有樂町三菱廿一號館
 電話 九ノ内 2617番

[写真-7.42：藤永田造船所の広告²⁾]

《資料》

- 1) 三井造船(株)：『三井造船株式会社 75 年史』，平成 5 年 3 月
- 2) (社) 帝国鐵道協會：『帝国鐵道年鑑』(昭和 3 年版)，昭和 3 年 5 月

資料 No-83

製作所名： 三菱重工業(株)

《沿革》

1873(明治 6)年 3 月 三菱商会 設立
1884(明治 17)年 7 月 工部省が長崎造船所を三菱商会に貸与し三菱会社長崎造船所 となる
1888(明治 21)年 12 月 三菱会社三菱造船所 となる
1893(明治 26)年 12 月 三菱合資会社三菱造船所 となる
1905(明治 38)年 7 月 20 日 三菱合資会社神戸三菱造船所 創立
1906(明治 39)年 三菱合資会社吉岡鉦山向け橋梁を製作
1914(大正 3)年 12 月 彦島造船所 開設
1917(大正 6)年 11 月 三菱造船(株) となる
1934(昭和 9)年 4 月 11 日 三菱重工業(株) となる
1935(昭和 10)年 11 月 横浜船渠(株) を合併し横浜造船所とする
1943(昭和 18)年 12 月 彦島造船所を下関造船所とする
1944(昭和 19)年 3 月 広島造船所 開設
1946(昭和 21)年 2 月 七尾造船所 開設
1950(昭和 25)年 1 月 11 日 三社に分割
① 東日本重工業(株) 横浜造船所, 七尾造船所など
1952(昭和 27)年 6 月 1 日 三菱日本重工業(株) に改称
② 中日本重工業(株) 神戸造船所など
1952(昭和 27)年 5 月 29 日 新三菱重工業(株) に改称
③ 西日本重工業(株) 長崎造船所, 下関造船所, 広島造船所など
1952(昭和 27)年 5 月 27 日 三菱造船(株) に改称
1964(昭和 39)年 6 月 1 日 三社が合併して三菱重工業(株) となる

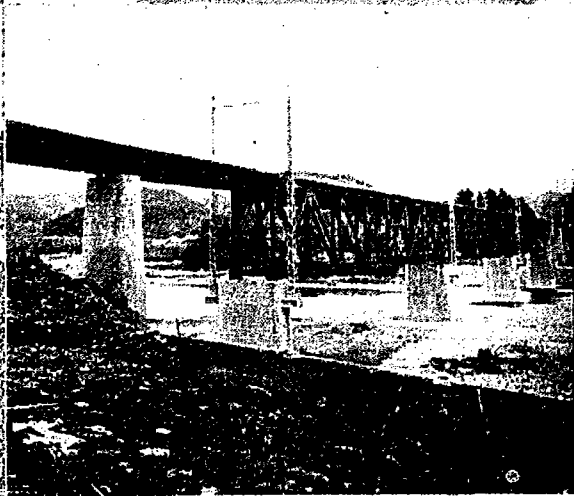
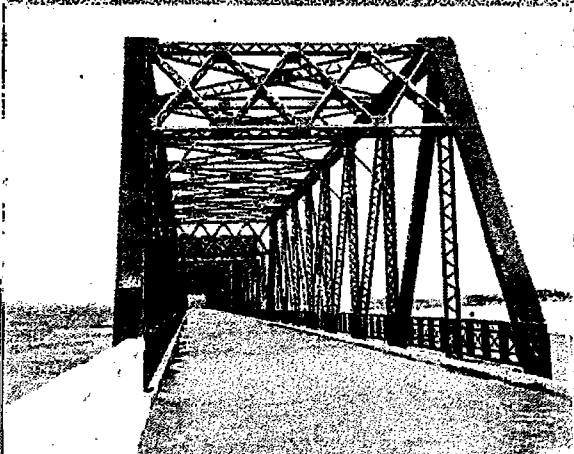
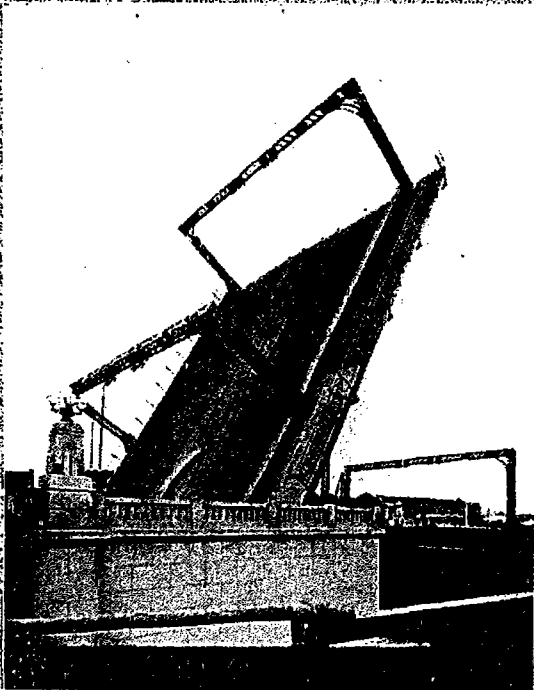
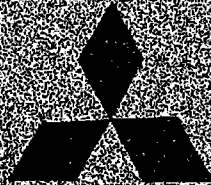
《製作した主な橋梁》

1908(明治 41)年 鉄道用プレートガーダー
1924(大正 13)年 篠ノ井橋 (長野県)
1925(大正 15)年 江東橋 (復興局)
1927(昭和 2)年 高松橋 (神戸市)
1931(昭和 6)年 両郡橋 (長野県)
1931(昭和 6)年 小見水路橋 (富山県)
1935(昭和 10)~1937(昭和 12)年 三信鉄道 (現・飯田線) 橋梁 86 連
1936(昭和 11)年 市代吊橋 (静岡県)
1951(昭和 26)年 釜口橋 (静岡県)
1951(昭和 26)年 太平橋 (鹿児島県)
1953(昭和 28)年 緑大橋 (広島市)
1955(昭和 30)年 掛塚橋 (静岡県)
1955(昭和 30)年 新喜多橋 (大阪市)
1957(昭和 32)年 白糸橋 (静岡県)
1957(昭和 32)年 代継橋 (熊本市)
1960(昭和 35)年 毛馬橋 (大阪市)
1961(昭和 36)年 五反田橋梁 (東海道新幹線)
1964(昭和 39)年 長良川橋 (名神自動車道)
1966(昭和 41)年 摩耶大橋 (神戸市)
1969(昭和 44)年 安倍川橋 (東名自動車道)

《資料》

- 1) 三菱重工業(株):『海に陸にそして宇宙に』, 平成 2 年 4 月
- 2) 三菱重工業(株)神戸造船所:『三菱神戸造船所七十五年史』, 昭和 56 年 11 月 25 日
- 3) 土木学会誌, 第 3 巻第 1 号, 広告, 昭和 9 年 1 月

三菱の橋梁



三菱造船株式会社

神戸造船所

神戸市兵庫区和山町

[写真-7.43：三菱造船所の広告³⁾]

資料 No-83-1

製作所名：長崎製鉄所

《沿革》

1857(安政4)年10月10日	徳川幕府 長崎鑄鉄所 開設
1860(万延1)年12月12日	徳川幕府 長崎製鉄所と改称
1861(文久1)年3月28日	長崎製鉄所落成式
1863(文久3)年	立神工場を開設
1868(明治1)年6月19日	長崎府所管 長崎製鉄所となる
1868(明治1)年9月16日	「くろがね橋」(長崎市)
1869(明治2)年6月20日	長崎府が長崎県となる
1871(明治4)年4月	工部省 長崎造船所となる
1871(明治4)年8月	工部省 造船寮 長崎造船所となる
1872(明治5)年10月	工部省 製作寮 長崎造船所となる
1877(明治10)年1月	工部省 工作局 長崎工作分局となる
1883(明治11)年9月	工部省 長崎造船局となる
1884(明治17)年7月	三菱商会に貸与する、三菱会社長崎造船所となる

《製作した主な橋梁》

《資料》

- 1) 大内兵衛他編：『明治前期財政経済史資料集成 第17巻 工部省沿革報告』
昭和6年9月30日、改造社
- 2) 三菱造船(株)：『創業百年の長崎造船所』、昭和32年10月10日

資料 No-83-2

製作所名：横浜船渠(株)

《沿革》

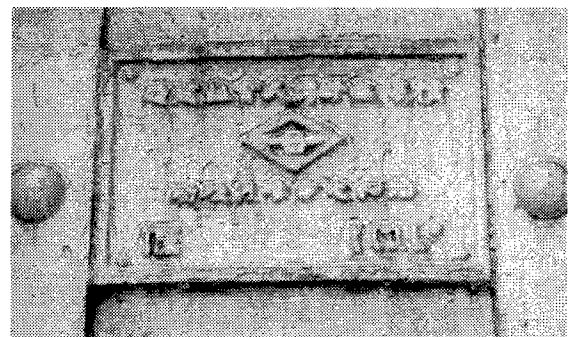
1875(明治 8)年 12 月 三菱製鉄所 創立
1885(明治 18)年 9 月 日本郵船横浜鉄工所 となる
1896(明治 29)年 9 月 横浜船渠会社 となる
1917(大正 6)年 「開運橋」(盛岡市)
1935(昭和 10)年 11 月 三菱重工業(株)と合併し 三菱重工業(株)横浜造船所 となる

《製作した主な橋梁》

1922(大正 11)年 大江橋 (横浜市)
1926(昭和 1)年 日野橋 (東京府)
1928(昭和 3)年 大井川橋 (静岡県)
1928(昭和 3)年 打越橋 (横浜市)
1932(昭和 7)年 水府橋 (水戸市)
1933(昭和 8)年 尾張大橋 (愛知県)



[写真-7.44: 横浜船渠の橋歴版 (大井川橋)]



[写真-7.45: 横浜船渠の橋歴版 (水府橋)]

《資料》

1) 三菱重工業(株)横浜造船所：『三菱重工横浜造船所百年史』，平成 4 年 2 月

資料 No-85

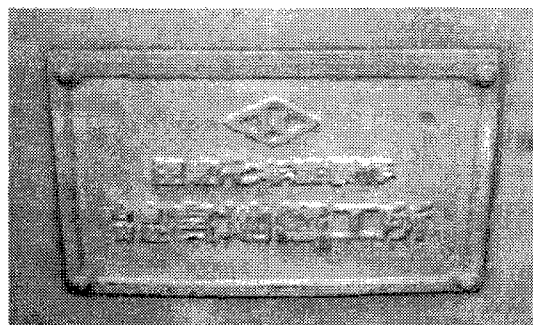
製作所名：(株)宮地鐵工所

《沿革》

- 1908(明治 41)年 宮地栄治郎が個人経営で東京市本所区南二葉町(現墨田区亀沢)に創業。ボルト、鉄扉、鉄柵などを製作
- 1914(大正 3)年 初の橋梁架設工事として「名取川橋梁」(鉄道省)を架設
- 1920(大正 9)年 東京府南葛飾郡大島町(現江東区大島)に大島工場を新設
- 1924(大正 13)年 震災復旧にともない鉄道省の架設工事を大量受注
- 1926(大正 15)年 「聖橋」、「江戸橋」など復興局の橋梁架設工事に参画
- 1931(昭和 6)年 南二葉町・大島町の工場を閉鎖し、砂町工場を開設
- 1932(昭和 7)年 「札の辻橋」(東京市)
- 1933(昭和 8)年 砂町第二工場を開設
- 1945(昭和 20)年 波田(松本)に工場疎開
- 1946(昭和 21)年 波田工場操業開始
- 1941(昭和 36)年 波田工場を松本工場、砂町工場を東京工場に改称
- 1974(昭和 49)年 市川工場を開設
- 1975(昭和 50)年 東京第一工場を閉鎖
- 1976(昭和 51)年 東京第二工場を新砂工場に改称、東京第三工場を閉鎖
- 1982(昭和 57)年 市川工場を閉鎖、千葉工場の部分操業を開始
- 1983(昭和 58)年 本社を中央区小伝馬町に移動、千葉工場が全面稼働

《製作した主な橋梁》

- 1933(昭和 8)年 梅島橋 (東京市)
- 1933(昭和 8)年 開国橋 (山梨県)
- 1933(昭和 8)年 亀甲橋 (山梨県)
- 1937(昭和 12)年 白妙橋 (東京市)
- 1939(昭和 14)年 奥多摩橋 (東京府)
- 1948(昭和 23)年 昭和橋 (埼玉県)
- 1950(昭和 25)年 棚尾橋 (愛知県)
- 1953(昭和 28)年 熊ヶ根橋 (宮城県)
- 1955(昭和 30)年 鷹ノ巣橋 (愛知県)
- 1956(昭和 31)年 筑紫橋 (北海道)
- 1955(昭和 32)年 親鼻橋 (埼玉県)
- 1958(昭和 33)年 三坂大橋 (群馬県)
- 1958(昭和 33)年 江東新橋 (東京都)
- 1959(昭和 34)年 笠置橋 (京都府)
- 1961(昭和 36)年 沼田大橋 (北海道)
- 1962(昭和 37)年 銚子大橋 (道路公団)
- 1964(昭和 39)年 飯泉橋 (神奈川県)
- 1966(昭和 41)年 市川橋 (関東地建)

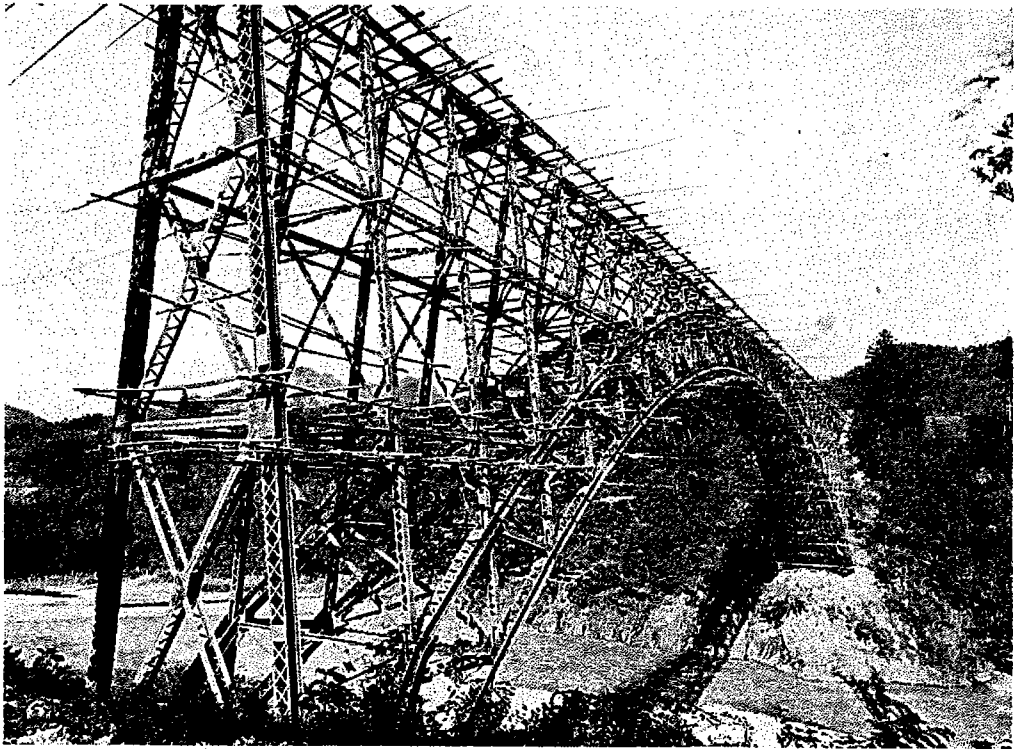


[写真-7.46：宮地鐵工所の橋歴版（札の辻橋）]

《資料》

- 1) (株)宮地鐵工所：『MIYAJI 創業 80 周年記念』, 昭和 63 年
- 2) 内務省土木試験所：『本邦道路橋輯覧 第四輯』, 広告, 昭和 14 年 4 月

東京府 奥多摩橋



營業種目

鐵骨、橋梁、鐵塔、製作
鐵管水門捲揚製作
瓦斯槽、水槽、油槽、空氣槽、製作
起重機索道製作
土木建築請負

株式會社 宮地鐵工所

東京市城東區南砂町九丁目二四七〇番地
電話本所 (73) 代表 9306(4)

分工場 東京市城東區南砂町四丁目六二五番地
電話本所 (73) 5333. 9776

支店 名古屋市西區本重町一丁目二〇三番地
電話本局 4 1 3 3

出張所 大阪市西淀川區塚本町五〇二ノ三〇
電話福島 3 8 7 7

朝鮮京城府漢口通十一番地
電話龍山 1 1 4 1

[写真-7.47：宮地鐵工所の広告²⁾]

資料 No-86

製作所名：矢野組

《沿革》

大阪市此花区大関町

《製作した主な橋梁》

1926(大正 15)年 御幸橋 (滋賀県)

《資料》

1) 小原光信：「御幸橋の改築工事に就て」，道路の改良 8 卷 1 号，道路改良会，
大正 15 年 10 月 1 日

資料 No-89

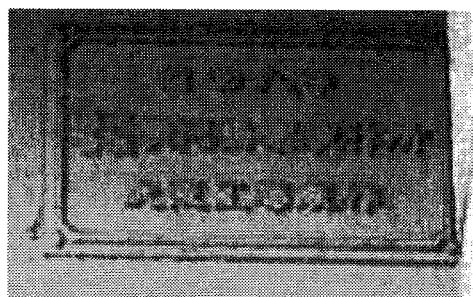
製作所名：(株)横河ブリッジ

《沿革》

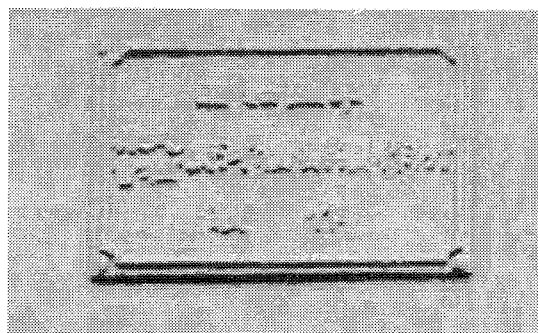
1907(明治 40)年 2月 11日	大阪市西区境川 86 番地に横河民輔が横河橋梁製作所として創業
1908(明治 41)年	橋梁製作開始, 「上繋橋」(大阪市営電気鉄道)を製作
1911(明治 44)年 10月	鉄道院から橋桁製作工場に指定
1914(大正 3)年 3月	東京市深川区千田町 1 番地に東京工場開設
1918(大正 7)年 5月	(株)横河橋梁製作所と改名
1922(大正 11)年 1月	新東京工場を芝浦に開設し本社も構内に移転, 旧工場は分工場とする
1923(大正 12)年 9月	関東大震災により分工場閉鎖
1940(昭和 15)年 8月	東京市深川区加崎町 2 番地に深川工場開設
1943(昭和 18)年 7月	創業以来の大阪工場を閉鎖
1945(昭和 20)年 11月	東京工場を芝浦工場と改称
1964(昭和 39)年 10月	大阪工場操業開始, 第一号橋梁として「天門橋(天草 1 号橋)」(道路公団)を製作
1969(昭和 44)年 2月	「藻塩橋」(東京都)の製作を最後に芝浦工場を閉鎖, 千葉工場操業開始
1978(昭和 53)年 3月	深川工場閉鎖
1991(平成 3)年 10月	(株)横河ブリッジ に社名変更
1999(平成 11)年 3月	千葉工場を閉鎖

《製作した主な橋梁》

1912(明治 45)年	山家橋	(京都府)
1913(大正 2)年	勝山橋	(福井県)
1913(大正 2)年	八ツ山橋	(鉄道院)
1915(大正 4)年	大正橋	(大阪市)
1922(大正 11)年	淀川橋梁	(阪神電鉄)
1923(大正 12)年	安倍川橋	(静岡県)
1923(大正 12)年	利根川橋	(内務省)
1925(大正 14)年	松齡橋	(福島県)
1927(昭和 2)年	豊海橋	(復興局)
1928(昭和 3)年	言問橋	(復興局)
1939(昭和 4)年	柳橋	(復興局)
1930(昭和 5)年	吾妻橋	(東京市)
1931(昭和 6)年	坂東大橋	(群馬県)
1932(昭和 7)年	隅田川橋梁	(総武線)
1932(昭和 7)年	戸田橋	(埼玉県)
1933(昭和 8)年	東山橋	(京都府)
1934(昭和 9)年	瑞穂橋	(内務省)
1935(昭和 10)年	丸子橋	(東京府)
1939(昭和 14)年	勝鬨橋	(東京市)
1942(昭和 17)年	四条大橋	(京都府)
1948(昭和 23)年	忠節橋	(岐阜県)
1955(昭和 30)年	西海橋	(長崎県)



[写真-7.48：横河橋梁製作所の橋歴版（東山橋）]



[写真-7.49：横河橋梁製作所の橋歴版（坂東大橋）]

《資料》

- 1) (株)横河橋梁製作所：『横河橋梁 80 年史』, 昭和 62 年 11 月 3 日
- 2) 土木学会誌, 第 15 卷第 2 号, 広告, 昭和 4 年 2 月



復興局御註文柳橋 (工場内假組立中)

株式會社
横河橋梁製作所

營業科目

鋼橋、桁、鐵塔
鐵骨家屋、鐵管
ポイントクロツシング
其他附帶業務

本社 東京市芝區月見町一丁目七番地

電話高輪二七六六番

東京工場 東京市芝區月見町一丁目七番地

電話高輪三〇九七〇番

大阪工場 大阪市港區南境川町三丁目三〇番地

電話西三三三
五五五
八八八
四三二
番番番

[写真-7.50：横河橋梁製作所の広告²⁾]

資料 No-90

製作所名：横尾鉄工所

《沿革》

《製作した主な橋梁》

1927(昭和 2)年 百貫橋 (佐賀県)

《資料》

資料 No-91

製作所名：吉田鉄工所

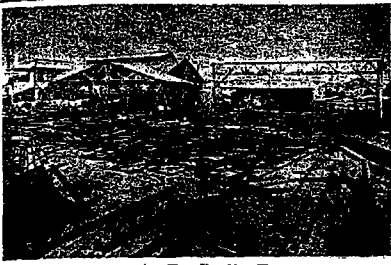

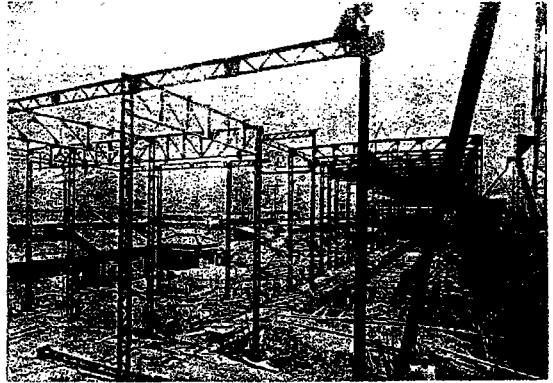
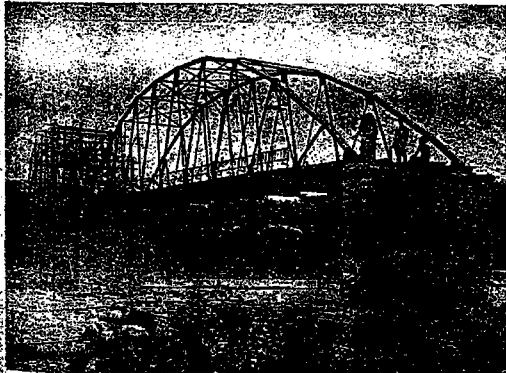
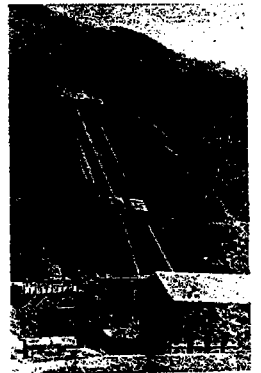
《沿革》

1916(大正5)年10月

創立 (大阪市此花区吉野町 3-92)

《製作した主な橋梁》

高島橋人道橋 (和歌山県)

	<p>創業種目 鐵骨 橋梁 鐵塔 水壓鋼管 製作並附帶業 創立 大正五年十月</p>	<p>吉田鉄工所 大阪市此花区吉野町三ノ九二 電話七五七四七八八番 代表者 吉田清</p>
		
<p>宇治川電氣株式会社 立花中継鐵塔(100呎)</p>	<p>鉄道鐵軌株式會社製鐵工場鐵骨の一部(抄紙室)</p>	
		
<p>和歌山縣高島橋人道橋 (徑間百二十三尺)</p>	<p>大同電氣株式会社 東京電氣所鐵管 (口徑六呎)</p>	

[写真-7.51：吉田鉄工所の広告¹⁾]

《資料》

1) 畠中士郎編：『建築土木資料集覧』，昭和6年4月10日

資料 No-92

製作所名：渡辺鉄工所

《沿革》

《製作した主な橋梁》

1922(大正 11)年 飯豊川橋梁 (日鉄鉱業専用線)

《資料》

1)土木学会：『歴史的鋼橋集覧』，平成 14 年